げんこつ団
『デウス・エクス・マキナ
～完璧な首相～』

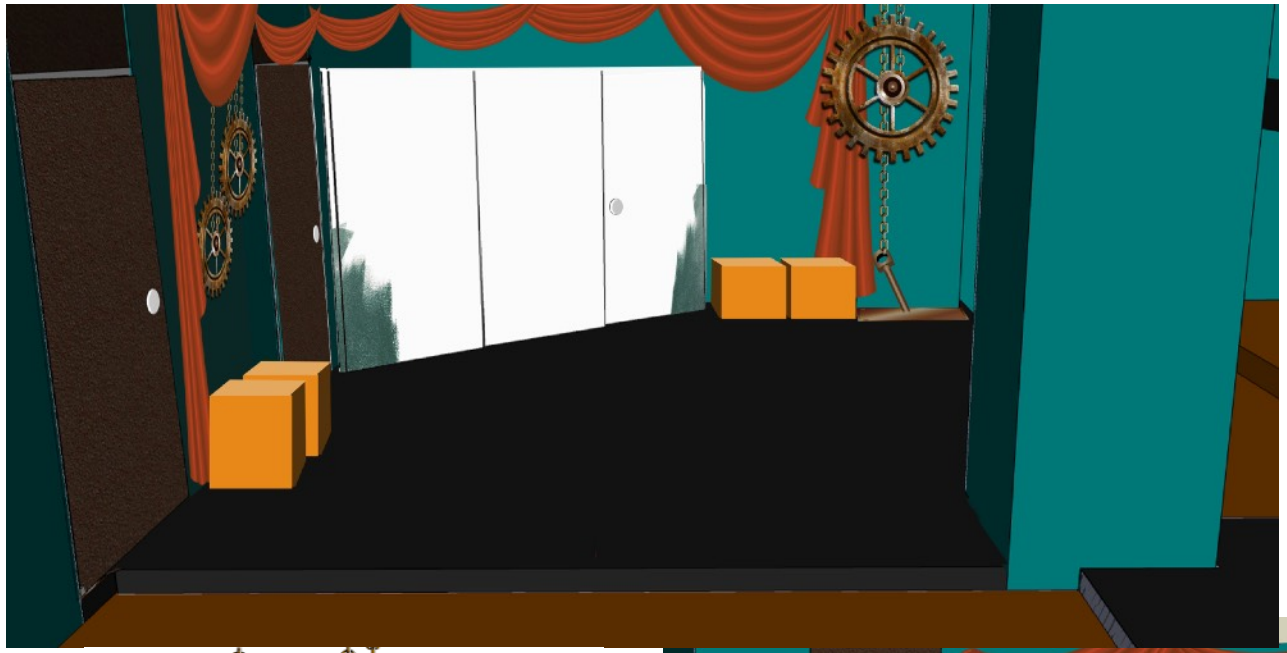
植木 早苗
春原 久子
河野 美菜
丹野 薫
池田 玲子
三明 真実
三井田 明日香
白宮 綺桜

脚本　一十口 裏

演出・映像・音響　一十口 裏
演出・振付　植木 早苗

照明　山岡 茉友子　舞台装置　畠山 英樹　音響オペ　吉田 有花　映像オペ　信広 天音

協力：株式会社テンカトル　(有)プログレスアイエヌジー　涙目キューピー　劇団B級遊撃隊　畠山工務店
制作：げんこつ団事務所



チラシ謳い文句

「突如現れた完璧な首相。
国会議事堂大回転。
正体不明の彼の出身地は、
古い古い歴史を持つ”演劇のまち“だった。
その正体を辿る、
スペクタクルロマンナンセンス喜劇。」

＜デウス・エクス・マキナ＞
主に悲劇において物語が錯綜した際に登場し、
強引に難局を打開する”機械仕掛けの神“。
いわゆる”ご都合主義“的な、
古代ギリシャ演劇の演出方法。

2024年11月　新政権発足
3日目　幸せ
4日目　腐敗
5日目　再建

1945年	終戦	綱元 10才
1960年	島人口減少	綱元 上京25才
1965年	島人口半減	一文字 誕生
1983年	県消滅	一文字 上京18才
2023年		綱元 永眠88才

＜配役＞

植木早苗・・・・大黒明美　裏方1　男　桐囃子鳴海　母2　金目鯛　裏方6　大迫典打　公安2
春原久子・・・・元加害者　カメラマン　官僚4　檜山花那　子アニサキス　裏方5　公安4　お爺さん2　双子2
河野美菜・・・・一文字響平　戸柿正司　裏方3　お爺さん1　母1　穴
丹野　薫・・・・羽二重欄太　元被害者　裏方2　地絣幕郎　陛下　動画　橋掛千茶都
池田玲子・・・・九呉国麿　綱元まこと　官僚3　裏方4
三明真実・・・・柝頭金呉　官僚1　女　山台鎮信　アニサキス　公安1　広告の女　公安5　ウジ
三井田明日香・・和馬　記者　官僚2　警官　公安3　大鼓千鳥　双子1
白宮綺桜・・・・鏡　紗良　カメラマン

＜目次＞

Scene 就任 1 ― 会場（委員長・記者・綱元・羽二重・カメラマン2人） 1
Scene 就任 2 ― ビル8階（委員長・記者・大黒・戸柿） 2
Film OPENING 4
Scene 幸せ 1 ― ビル8階（戸柿・鏡・元加害者・元被害者） 5
Scene 幸せ 2 ― ビル8階（戸柿・鏡・大黒） 6
Scene 出発 1 ― 日比谷公園（官僚1・官僚2・官僚3・官僚4・鏡） 10
Scene 出発 2 ― 議事堂地下（裏方1・裏方2・裏方3・裏方4・鏡） 12
Film 往路 15
Scene 故郷 1 ― 大入県平台町（警官・男・女・鏡） 16
Scene 故郷 2 ― 大入県奈落村（地絣・檜山・一文字・山台・鏡） 18
Scene 故郷 3 ― 大入県奈落村（桐囃子・九呉・檜山・一文字・鏡） 20
Film 帰路 24
Scene 帰還 1 ― 日比谷公園（官僚1・官僚2・元加害者・元被害者・大黒・お爺さん1） 24
Scene 帰還 2 ― 日比谷公園（鏡・九呉・陛下・戸柿・母1） 27
Scene 帰還 3 ― 日比谷公園（鏡・九呉・金目鯛・和馬・アニサキス・子アニサキス） 30
Scene 会見 ― 議事堂（羽二重・母2） 33
Film 中止 35
Scene 修繕中 1 ― 議事堂（羽二重・裏方5・裏方6・穴・公安1） 35
Film 工事中 39
Scene 修繕中 2 ― 深川（元加害者・動画） 39
Scene 探索 1 ― 深川（鏡・九呉・公安2・公安3） 40
Scene 探索 2 ― 町工場（鏡・九呉・一文字・橋掛・元加害者・広告の女・大鼓・大迫） 43
Scene 探索 3 ― 町工場（鏡・九呉・一文字・橋掛・公安2・公安3・公安4・公安5） 47
Film 工事完了 50
Scene 幸せ 3 ― ビル8階（鏡・九呉・羽二重・穴） 51
Scene 幸せ 4 ― 中央合同庁舎第6号館（大黒・お爺さん2・和馬・ウジ） 53
Scene 幸せ 5 ― 議事堂地下（鏡・九呉・大黒・羽二重・穴・委員長・双子1・双子2） 55
Film ENDING 60

客入れ中、受付でお客様一人一人に丸ラベルシールを配り、
劇場内に貼り出した左記の貼り紙に、回答を選んでシールを貼って頂くようお伝えする。

＜全国民党 総裁選挙＞「あなたの望みをお答えください」
【 幸せに・・・ ― なりたい ― 出来ればなりたい ― 出来るだけなりたい ― なれるものならなりたい 】

Scene 就任 1 ―会場（委員長・記者・綱元・羽二重・カメラマン2人）

客電がついたまま開幕。委員長、奥ドアからやって来て客席に言う。

委員長　全国民党の皆様、ご列席並びにご投票、誠に有難うございます。
あ、有難うございます。有難うございます。

客入れ音楽オフ。委員長、張り紙を取って言う。

委員長　えー。只今、集計結果が出ました。只今、集計結果が出ました。

手前ドアよりカメラマン二人が走り込んで来て、客席に向けてシャッターを切る。

委員長　えー。只今の集計結果により、総裁第規定第二十二条を準用した実施要領に基づき、二千二十四年十一月総裁選挙、綱元まことくんをもって、新総裁が決定いたしました。えー。綱元まことくんの就任が、決定いたしました。

音楽イン。劇場出入り口にスポットライト。綱元（つなもと）まこと40代、両手を広げて登場。
その後ろに羽二重欄太30代。またその後ろから女性記者がマイクを持って中継を始める。

記者　決まりました。綱元まこと氏当選です。綱元総裁です。皆さん、拍手を！
綱元　有難うございます。有難うございます。皆さまのご支持により、わたくしここに立たせて頂いております。

カメラマンは綱元を連写。羽二重、拍手と歓声。綱元、舞台上へ上がり演説。委員長は舞台奥へ。

綱元　ご安心ください。わたくしが総裁を務めますからには、全ての雇用は直ちに安定、給料はぐんとアップ。
そして税金はぐぐんとダウン、致します。また少子化はぴたっとストップ。景気は大幅に回復、どころか
繁栄の極みを見せ、社会保障もばっちり治安も安泰。あらゆる社会問題の全てが一気に解決、致します。
羽二重　綱元！
綱元　またわたくしは決して、間違ったことを致しません。
羽二重　そうだ！
綱元　小さな不正のひとつも、一切、致しません。
羽二重　致しません！
綱元　そうして全国民の全ての声に、しっかりと耳を傾けます。
羽二重　（客席の一人一人に）はい、あなたの声も、あなたの声もです、
綱元　全国各地津々浦々まで、あらゆる境遇の人々、あらゆる声の、たった一つも、聞き漏らしません。
羽二重　どの声もー！

綱元　そうして全ての人々が直ちに、幸せになることを、お約束します。
羽二重　（客席の一人一人に）あなたもです、あなたもです、
綱元　皆さまの幸せを、お約束、致します。あ、有難うございます（お客様方と握手）お任せください、

握手をしては羽二重が除菌シートを一枚渡し、握手をしては除菌シートを一枚渡し、する。

記者　…ご覧ください。握手の度に除菌シートを配るという、この気遣い、この心配り。彼こそまさに、完っ璧な政治家です。
綱元　（両手を広げ、羽二重とポーズをとる）
記者　これで日本は大丈夫、これで我々は大丈夫です！（そして拍手）
カメラマンら　（口々に）こっち向いてください！こっちお願いします！（などと、綱元をしきりに撮る）
羽二重　ではこちらへ。（綱元を先導し手前ドアへ去っていく）
綱元　（客席に手を振り、手前ドアへ去っていく）
カメラマンら　（口々に）ああいい。うんいいね。そうもっと。（興奮のあまりかお互いの姿をしきりに撮り始め）

カメラマンたち、お互いを熱く撮り合いながら去っていく。音楽フェードアウト。
照明変わり、讃美歌「shall we gather at the river」（ピアノかオルゴール）が、小さく流れ出す。

Scene 就任 2　（ビル8階（委員長・記者・大黒・戸柿）

記者　さてこれより、綱元首相は議事堂に移動し、閣僚人事を執り行います。そして新内閣の発足を早急に、
大黒　ちょっと待って。なに今の…。
記者　はい？
大黒　ここビックカメラよね。有楽町店8階。時計とコンタクトレンズのフロア。

分厚いビン底メガネをかけた大黒明美50代が、客席の後ろに居た。
讃美歌はビックカメラCM曲の原曲。「ビックカメラ」と書かれた制服ベストを着た戸柿正司30代、
客席の後ろからやって来て、客席の間のスペースをウロウロし始める。

記者　…まあ、そうですけど。
大黒　（客席に）ねえ皆さん、時計かコンタクトレンズを買いに来た方でしょ？ 私もコンタクト落として急いで買いに来たんだけど‥、（手に持ったビックカメラの手提げ袋を見せる）
戸柿　（客席に）なにかお探しですか？
大黒　ねえさっきの何？
記者　ああ、総裁選です。
大黒　は？
委員長　総裁選挙です。
大黒　なんでここで？
委員長　まあ。だいたい、空（す）いてるんで。
戸柿　（客席に）なにをお探しですか？
委員長　あ、店員さん、ガーミンのスマートウォッチでソーラーの、
戸柿　あ、スマートウォッチは三階になっちゃうんですよー。
大黒　（笑って）いやいやいや。ねえ、なんのおふざけかしら。あなたたち何なの、どこの誰。

記者・委員長　……。
大黒　（ビン底メガネを外し）ああほら私、大黒です。大黒明美。次期首相候補にも名前が上がってる、
記者　ああ、
大黒　あのね、あんなの無理だから。ほらさっきのあれ。（記者に近付いていき）あらゆる社会問題の全てを一気に解決ーとか、国民の全てを直ちに幸せにーとか。馬鹿馬鹿しい。
記者　はあ。（大黒が近いので押し退ける）
大黒　そりゃ理念はそうよ、私だってそう。（柱に話しかけだす）でもね、現実的に考えて。そう簡単じゃないの。
記者　それ柱です。
大黒　だからこそ我々は日々骨身を削ってるわけだから。（振り返る）
記者　はい。
大黒　ほら今もね、議事堂でテロ対策特別措置法の議会が行われるのよ。（舞台奥を指差す）
記者　（舞台奥を振り返る）
大黒　（そして記者の持つマイクを奪ってマイクに話しかけだす）とっても大事な議題なの。だから与野党議員の全員が集結して……あら‥、あなた頭小さいわね。…えっちょっと待って。私が巨大化？ えっ……？
記者　あの、
委員長　（戸柿に）……ここの時計って時間あってますよね。
戸柿　あ、はい。

店内時計のデジタルアラーム音、アナログ目覚まし音、柱時計のボンボン音、一斉に鳴り出す。

委員長　（舞台裏ドアへ向かう）
大黒　ああやだ早く行かないと。タクシー待たせてんのよ、これじゃ乗れないじゃない、（マイクを叩く）
記者　いや‥、
大黒　ああもうこのまま歩いたら人を潰しちゃうわ……ああでもいっか。国政のためなら。（力強く歩き出す）
記者　あ、あのー‥、

そこに大きな地響き音。照明と地面が揺れ、軋むような低い地鳴りが続く、間。

戸柿　……なに？
委員長　（舞台奥ドアから木枠を持って戻り、映写パネルの前に掲げる）
記者　あっ、皆さん！ 窓の外を見てください。窓の外です！
戸柿　えっ、ビックカメラに窓？

戸柿と記者、木枠に駆け寄り、映像イン。国会議事堂が巻き上がる噴煙に包まれている。

戸柿　えっ……。

そしてゴゴゴゴと低い軋み音と共に、議事堂が激しく、爆発せんばかりに揺れだす。

戸柿　ああっ…議事堂が、議事堂から煙が‥、
大黒　え、なに？　煙？ テロ？

そして議事堂がゆっくりと回転を始める。

戸柿　え・・・議事堂が・・・、
大黒　議事堂がなに？ どうしたの？
記者　（マイクを奪って客席に言う）えー只今、全ての与野党議員を満載した議事堂が激しく揺さぶられ、完全に裏返ろうとしています。新内閣の発足です。えー令和六年十一月、第一次綱元まこと内閣、発足です・・・！
大黒　・・・えっ？
記者　さあこれより、全国民が幸せに満ちた人生を、

そこで大黒が記者に体当たりしてマイクを奪う。記者はよろめき、木枠から外に放り出される。

記者　・・・・・・・・・・・！（木枠の向こうに落ちていく）
委員長　えっ・・・・・・・・、
戸柿　・・・・・・・・・・・・・落ちたー・・・・・・！
大黒　（マイクに）ねえちょっとあなた、今なんて言った？ 今なんて言ったの？（マイクを叩き）ちょっと！
戸柿　（木枠を覗き込んで）あああああ・・・

委員長は奥ドアへ走り、記者も転がりながら奥ドアへ。大黒はマイクに語りかけつつ手前ドアへ。
戸柿は木枠を覗き込んだまま、木枠と共に奥ドアへと去っていく。
映像はそのままオープニングへ。

Film OPENING

ビルから飛び降りようとしている会社員。病室で看護師に看取られている男性。墓石の前で泣き崩れる女性。
自室で老齢男性の首を絞める中年女性。道端に寝転ぶホームレス。そして、道端で脇腹を刺される男。刺した男。
血まみれで這う被害者。ナイフを持ってくずおれる加害者。それぞれに同じく光が当たって、光を見上げる。

地面から煙を挙げて議事堂が回転し、裏返る。タイトル。

ライブニュース。
声「今、与野党の全ての議員を満載したまま議事堂が回転し、完全に裏返りました。
全ての議員が議事堂と共に、完全に消息を断ちました。」
（議事堂に花火が上がる。）
声「これにより綱元まこと氏の首相への就任が決まりました。綱元首相、誕生です。完っ璧な首相です。
これにより全国民が幸せになります。これよりただちに、全国民が幸せになります。」
（笑顔で手を振る綱元首相。）

先ほどの者たち、目を輝かせ、街に繰り出す。互いに喜び合う。
血まみれで歓喜する被害者。注射針と白い粉を捨てる加害者。互いに喜び合う。

ビルがカラフルに輝き、ディスプレイや電光掲示板に、綱元首相の笑顔。
「綱元万歳！」「つなもと」「Happy!!」と書かれた飛行船が飛びアドバルーンが上がる。日が暮れて街が明るく輝く。

そして再び国会議事堂。夜が明けていくと、その周りには色とりどりの花が咲き乱れている。蝶々が飛ぶ。
綱元まこと首相が笑顔で手を振っている。警備員も制服に花を飾って、のどかな表情。
そして議事堂の遠景。「３日後」のテロップ。

Scene 幸せ 1

―ビル8階（戸柿・鏡・元加害者・元被害者）

映像のまま戸柿、木枠を映写パネルの前に掲げながら戻ってきて、木枠から議事堂を眺める。
鏡紗良20代、奥ドアからやって来る。映像オフ。

鏡　マスター、あの人たちまたですー。
戸柿　あー。（木枠を下ろして振り返り、奥ドアの方を見る）
奥ドアから　（笑い声）

戸柿の衣装はビックカメラのベストの文字だけ「喫茶ビック」に変わっている。鏡は妊娠五ヶ月。
鏡と戸柿が奥ドアを見るとそこから、「OPENING」の加害者と被害者、やって来る。

元加害者　いや、も一回、も一回。
元被害者　いや怖いですもん。びっくりしますもん。（黒ひげ危機一髪を持っている）
元加害者　ほらここ置いて。ほらそれ刺して。早く。（箱椅子を中央に運ぶ）
元被害者　無理無理無理。（黒ひげ危機一髪を箱椅子に置き、小さい剣を見せて）だって私、こういうので刺されたんですよ、ついこないだ。ここんとこグッサリー。
元加害者　（爆笑）そんな小さいの、違、これでしょこれ。（ポケットからナイフを出す）
元被害者　あ、ちょ・・・（一瞬で恐怖が蘇り戦慄して固まる）
元加害者　あ・・・・・・・（ナイフを見て唐突に固まる。そして無表情に淡々と、自分の腕をナイフで突き呟きだす）痛いよ母さんごめんよ母さんやめてよ母さんお願い母さん（繰り返し続く）
鏡　ああもうほら・・・！
戸柿　（木枠を置いたまま舞台裏ドアへ急ぎ去る）
元加害者　（呪文のように繰り返している）
元被害者　（戦慄して固まっている）
鏡　はい離脱症状、離脱症状です。（ナイフを取って元加害者を抱き寄せる）
元被害者　はいはい、PTSD、PTSD。　（元被害者の背中をとんとん叩く）
鏡　（やっと息をつく。或いは咳を切ったように泣く）
元被害者　じゃこれ、こっちで捨てときますんで。（ナイフを持ったまま奥ドアに向かう）
鏡　あ、待って。
元被害者　？
鏡　それは記念の品なんで。
元被害者　え？
鏡　だから、あの瞬間と同じ53分には毎時間毎時間、ここを一刺し。（脇腹を指す）
元被害者　・・・は？
鏡　記念 分 です。
元被害者　記念 日 でよくないですか？
鏡　え、
元被害者　だってその度に今みたいな、

元加害者　あー‥（正気に戻り黒ひげを指し）ダメだこれ、続かないもん。今度は何か違うの貸してよ。
鏡　ああ‥
元被害者　じゃ、そろそろお会計。（伝票を渡す）
元加害者　どうも、ごちそうさん。（ナイフを取り戻す）
鏡　（伝票を見て）あ。なにこれ。
元被害者　ああ私は泥水でも幸せだから、泥水を。
元加害者　俺は鼻水でも幸せだから、鼻水を。
鏡　（舞台裏ドアを見る）
元被害者　はいぼったくってください。法外な値段を要求して、借金させて追い回して。
元加害者　うん俺が前にしたみたいに追い回して。殴って蹴って殺して早く。
鏡　いやですよ。
元加害者　えー？
元被害者　じゃあこれで。（分厚く大きな玩具の札束を鏡に渡す）あとチップ。（もう一つ札束を渡す）
元加害者　釣りはいらねえ。言ってみたかったやつ（笑）釣りはいらねえ。（手前ドアへ）
元被害者　じゃ。（手前ドアへ）

二人、仲睦まじく去り、カランカランとドアベル音。戸柿、舞台裏ドアから戻ってくる。

戸柿　あ。帰っちゃったの？ チクタクバンバン持ってきたのに。（時計が追われるパッケージの箱を持っている）
鏡　あーそれもちょっと‥
戸柿　ぼったくった？ 殴った？殺した？
鏡　いえ。
戸柿　なんだ、喜ぶのに。（チクタクバンバンと黒ひげ危機一発を奥ドアに片す）
鏡　（手前ドアを見て）…幸せそうですね。たった三日であんなに幸せになりますか。何ですかこのお札。
戸柿　鏡ちゃんも幸せでしょ。（鏡のお腹を指して）
鏡　え？ あー。‥‥まあ。
戸柿　まあって。（箱椅子を運びながら）私もずーっと憧れてた喫茶店のマスターにさ、なれたんだし。うちの母さんだってずーっと憧れてたヤザワにさ、成り上がれたんだよ？
鏡　（戸柿を見る）
戸柿　だから鏡ちゃんもならないと。（箱椅子を運び終わる）
鏡　永ちゃんに？
戸柿　幸せに。
鏡　ああ。この子はなりますよ。（自分のお腹を触る）
戸柿　ああ。その為にもまずは自分。ね。だから、お母さんのことはもう忘れちゃおう。‥ね？ 忘れちゃえって。
鏡　…。

Scene 幸せ 2　一ビル8階（戸柿・鏡・大黒）

カランカランとドアベル音。派手にカラフルに着飾った大黒、手前ドアからやって来る。
大きな帽子。手には何色も重なった大きなアイスクリーム。

戸柿　いらっしゃい。
大黒　いつものね。

戸柿　はいよ。（鏡に）ごめん、お水お願い。（そして札束を取って舞台裏ドアへ去る）
鏡　はい。
大黒　あ、ちょっと待って。お水はいらない。座って。（先ほど鏡が座っていた箱椅子に座る）
鏡　あ、：はい。（戸柿の置いた箱椅子に座る）
大黒　おめでたなのね。
鏡　あ、はい。
大黒　…そうか。（戸柿が舞台裏に去ったのを確認してから）どうしてここで？
鏡　え？　あー…マスターが、とりあえずここ手伝わないかって。だから調子のいい時だけ、出ることに。
大黒　そう。
鏡　……。（それ以上特に言うことなく）
大黒　……ねえ。おかしいと思わない？　こんなの。
鏡　え？
大黒　ほら。一瞬にして全国民が幸せになったなんてあり得ないのよ。分かるでしょ？　私もあれからこの人生で一番の、最悪の日々を送っているわ…。（そしてアイスクリームを美味しそうに舐める）
鏡　いえ：とても幸せそうに見えますけど、
大黒　いいえ聞いて、あの声。あんなに多くの人たちが…、

外からの声。集団のシュプレヒコールが聞こえて来る。

声　「我々はー、幸せじゃーない！」「幸せじゃあない幸せじゃあない！」
鏡　（立ち上がり、木枠を持ち上げ、木枠を覗き込む）
声　「我々はー、幸せじゃーないーーー！」「フー！」（歓声と笑い声、パフパフと鳴り物）
鏡　（覗き込んだまま）いやなんだかすごく幸せそうですけど：、
大黒　（立ち上がり）でもよかった。ここに来れば会えると思った。（ソフトクリームを奥ドアに投げ捨てる）
鏡　あ。
大黒　私、あなたに会いたかったのよ。：どうしても渡したいものがあるの。
鏡　なんですか？
大黒　（鞄の中からマイクを出して、鏡に見せる。マイクにはぞんさいな服を着せてある）
鏡　え？
大黒　あなたのお母さんよ。
鏡　……え？
大黒　どういうわけかこんな姿になってしまって。
鏡　いえ母は：、
大黒　なに？
鏡　母はその：、あの日、：この窓から転落…、（と、木枠を見る）
大黒　（驚き笑って）何を言ってるの。ビックカメラに窓なんてあるはずないじゃない。
鏡　え、
大黒　でしょ？
鏡　いやでも……、
大黒　だからこれがお母さん。あなたの唯一の家族。それが何故こんな姿になったんでしょうか？（と言うと、マイクを鏡に向ける）
鏡　あの、

大黒　（色々な格好いい持ち方でマイクを構えつつ言う）そう、きっと、お母さんは、真のジャーナリスト、だったんだわ。だからこんな、姿に、

鏡　（思わずマイクを奪って）やめて下さい、

大黒　その血を引くあなたはどう思う？

鏡　は？

大黒　あの新政権。あの首相。

鏡　え？

大黒　政治ってものは勝ち負けなの、信条の違う者同士の争い。幸せってものは勝ち取っていくものなの、時には汚い手を使ってでも。卑劣極まりないあさましく下劣な、鬼畜の所業を使ってでも。

鏡　はあ。

大黒　そうして腐敗するのよ。勝っても負けても大なり小なり。だからこそ奪い合っていかないといけないの。お金も時間も自由も有限。たとえそこそこの幸せだとしても、みんな仲良く平等になんて到底無理。

鏡　はあ。

大黒　国民の全員が最高に幸せなんて、絶対にあり得ないのよ。夢物語。（そして椅子に座る）

鏡　……はあ。（仕方なく椅子に戻る）

大黒　これを見て……。（鞄からタブレットを出し、タップし、差し出す）

映像イン。女性のスナップ写真。満面の笑顔。

鏡　誰ですか？

大黒　さあ。

鏡　（大黒を見る）

大黒　（タブレットを何度もスワイプしながら）綱元まことで検索してもこれしか出て来ないのよ。首相の情報が全くないなんておかしいでしょ？

映像、スワイプに合わせて満面の笑みの色々なショット。そしてよく分からない衣装の写真。

大黒　あ、なにこれ。なにをやってるの？

鏡　さあ：

大黒　（スワイプをやめ）だから私思ったの。あの首相は実在しないのかもしれない、フェイクなのかもしれない、それかＡＩ。

鏡　はあ：

大黒　でもね…もっと深く深く調べてみたら、遂にわかったのよ、…出身地が。（そしてタブレットをタップ）

映像、古い古いホームページ。先ほどの女性の写真。「綱元まこと・出身地・埼玉県川口市」
ホームページタイトルは、「あみもと♡まこと・旅行だいすき！たび日記」

鏡　いえ、この人「アミモト」さんです。

大黒　だからここに行って。首相の真実を暴いて欲しいの。（タブレットを伏せる。※映像オフ）

鏡　え？

大黒　彼が何者なのか。本当の姿を暴いて頂戴。

鏡　いや、

大黒　その子には、こんな虚構の世界ではなく本当の世界を、本当の幸せを、本当の不幸を、たっぷりと味わわせてやりたいでしょ？

鏡　いや不幸は、

大黒　前の議員は与野党とも皆、前の議事堂と一緒に、どこかに消えてしまったわ。

鏡　ああ：

大黒　私が何とかしないと。

鏡　はあ：

大黒　だからお願い。真のジャーナリストの意志を、継いで頂戴。

鏡　いや：、

大黒　お母さんは最期まで報じていたわ。激動の政局を。

鏡　（マイクを見る）

大黒　…ね？　これは責務。（さっきのブログをプリントアウトした紙を差し出す）

鏡　（受け取って）いやでもこれ別人です。

戸柿、舞台裏ドアから戻って来る。巨大で重くゴテゴテとした、色鮮やかなパフェを持って。

戸柿　お待たせしました、特製スペシャルドリーミング・ラグジュアリーパフェ。あー鏡ちゃんごめん手伝って。

大黒　ごめんなさい、それ食べといて。

戸柿　え？お客さん？

大黒　…釣りは要らねえ。（鞄からカラフルな玩具の札束を出して放り投げ、上機嫌で手前ドアへ去っていく）

カランカランとドアベル音。

鏡　あの人、いつもこれを…？

戸柿　あー鏡ちゃん食べられる…？（パフェを鏡に近づける）

鏡　（えづき）いやちょっと、

戸柿　参ったなー、冷やしたら硬くなっちゃうんだよなー。

鏡　あー。

戸柿　かと言って置いとけば腐敗ガスを撒き散らして爆発するし。捨てたら捨てたで周辺10kmは、汚染されるんだよなー。

鏡　え：：

戸柿　だからごめん、ちょっとだけ手伝って。（パフェを鏡に近づける）

鏡　（えづく）いや、やっぱ無理です。

戸柿　えーこのままじゃ大爆発か汚染だよ？　いいの？

鏡　冷蔵庫入れといてください。

戸柿　こんなの入らないんだよー。ほら食べてよ。ね？（パフェを鏡に近づける）

鏡　ごめんなさい、（手前ドアへ逃げていく。カランカラン音）

戸柿　ちょっと！（ドアまで追うも諦める）…参ったな。

音楽イン。戸柿、札束をパフェに乗せて奥ドアへ。

中年男女が歌い踊りながら奥ドアからやって来る。木枠は舞台奥に残ったまま。

Scene 出発 1　―日比谷公園（官僚1・官僚2・官僚3・官僚4・鏡）

中年男女は立派なスーツの官僚たち。官僚1・2・4は男性、官僚3は女性。
歌と踊りはやけに艶っぽく、オトナの色気に満ちたもの。

歌「ハピトゥデイ、花咲き乱れ、眩みゆく、あなたに、しゃぶりつきたい、フレグランス」
（リズム「ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン、　パッパ パルラル」）
歌「ハピトゥデイ、激しい愛撫、狂おしく、肌つたう、したたる蜜の、スウィーティフレイバー」
（リズム「ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン パ、ボン、　パッパ パルラル」）
歌「ホールド、ミー、タッチ、キッス、揺れる果実」
声「スウィンギンフルーツ」
歌「ホールド、ミー、タッチ、キッス、割れる果肉」
声「ブレイキンフルーツ」
歌「ホールド、ミー、タッチ、ユー、やめないで」
声「ドンストップイット」
歌「ホールド、ミー、タッチ、ユー、突き進む」
声「パッパ パルラル」
間奏中　～　「イヤッハー prrrrrrr（巻き舌）」など。

そうして更に盛り上がる流れになるが、官僚2がプレイヤーを唐突にオフ。

官僚2　違うな。もっと内側からこう、沸き立ってくる、なに？　熱？ 火照り？ そういうのがあれだな。
官僚ら　（うんうんとそれぞれに）
官僚1　うん、じゃ休憩。休憩しよう。
官僚2　じゃ散開！ 五分後召集。
官僚3　（汗を拭いつつ）：でも冬はどこ行っちゃったんでしょう、すっかり春の陽気ね。

鳥の声。子供の遊ぶ声、大人の笑い声。のどかな公園の音がかすかに聞こえてくる。
官僚1と3は、箱椅子を上手側に持っていき、
官僚4は置いてあった椅子を中央奥に移動し、官僚2はその前の地面に座る。
皆座ると、マイクを持った鏡が開いたままの奥ドアからやって来る。
エプロンは外し、鞄を肩から下げている。
官僚1のみ、鏡を見ている。鏡はちょっと離れた下手側に置いたままの箱椅子に座る。
マイクを見つめる。

官僚1　（遠くからのまま小さめの声で、鏡を見ずに言う）すいません。（間。そして再び同じく）すいませーん：
鏡　（声に気づいて顔を上げる）
官僚1　（小さめの声で）あのー。
鏡　（官僚1を見る）
官僚1　（小さめの声で）この座り位置で大丈夫ですか。
官僚2　（小さめの声で）ダメだよ！ 気づいても気づかないふりしないと！

そして官僚ら一斉に、さりげない雰囲気でそれぞれに格好をつける。

官僚４　（小さめの声で）どこです？
鏡　は？
官僚４　（小さめの声で）カメラどこ。
鏡　…いえ。ありませんけど。
官僚ら　（一斉に立ち上がって闇雲に辺りを探しだす）
鏡　いやあの、どこにもないです、ないですから、
官僚１　なんだ、隠し撮りじゃないの。
官僚４　密着じゃないのか。
官僚３　ではインタビューですね。
官僚２　何でもお答えします。さあどうぞ。
鏡　…いえあの、
官僚１　（鏡の手をとりマイクに向かって）あー我々は内閣府の。あーいわゆる官僚です。
官僚３　主に行政事務などを。
官僚２　今度、重要政策に関する企画立案の関係部署への公表を、おこなうんです。
官僚４　そこの野音で。
鏡　は？
官僚４　野外音楽堂。
官僚１　なので今その練習を。
官僚２　今もう若い連中がステージの設営をしておりますので。
官僚３　見ていかれますか。
官僚２　新内閣になって、奴らもう生き生きと、働いておりますので。
官僚４　こちらです。
鏡　いえ私は：（ここで四人の顔を初めてしっかりと見る）…あ、どこかで見たことが…
官僚１　あ。わたくし、公文書偽造の塚田です。
官僚２　公金詐欺の真田です。
官僚３　公共物破損の滝田です。
官僚４　公然わいせつの絹田です。
鏡　ああ…、
官僚１　過去の話です。
官僚３　一週間ほど前。
官僚２　今となってはお話し出来ないことは何もありませんので。
官僚１　なんでもお答えいたします。
官僚３　物凄い話が聞けると思います。
官僚４　場所を移しましょうか。
官僚ら　（無言で賛同）

不穏な鳥の声や羽音、聞こえ始める。

官僚４　ではこちらに。（鏡の肩に手をやる）
鏡　……いえあの、
官僚２　すぐに着きます。

ここから官僚ら、鏡を伴ってゆっくり前へ歩きながら。森に入っていくような照明に。

官僚1　首相官邸と議事堂を結ぶ地下通路の他にも、この辺には色々と張り巡らされておりまして、
官僚4　当然ここの下にも。
官僚3　そこを通れば一瞬ですので。
鏡　でも私……、
官僚ら　（立ち止まる）
官僚4　（鏡の肩に片手を置いたまま、レバーのようなものを握る）
官僚1　じゃ。我々はタクシーで。
官僚2　2分くらいで着きます。
鏡　え、じゃあ歩けば。
官僚4　（レバーを下ろす）

ガチャンという重い音。一瞬の間の後、ガーッという音。
官僚4と鏡は高速下降、高速移動。鏡、悲鳴。
官僚1〜3は笑顔のまま遠ざかっていくように移動し、奥ドアに去りドアを閉める。
そしてガコン、プシューという音。照明変わる。顔をあげる鏡。鉄筋や木材のぶつかり合う音。

鏡　ここは……、
官僚4　議事堂の地下です。ここから内閣府の面談室へ参りますが、
鏡　ごめんなさい、違うんです私、
官僚4　え？（鏡を見たままベルトを外す）
鏡　あ。
官僚4　ああ。皆が到着するまで少し時間がありますから。（ズボンのチャックを下ろす）
鏡　あ。
官僚4　皆さんのに比べたら非常に小ネタなんですが、まずはこちらの取材からと。（ズボンを脱ぎ下ろす）
鏡　いえ結構です…！（逃げだす。そして思わず木枠に隠れる）
官僚4　ちょっと！走ったら危ない。（ズボンを履き）どうしたんですか（鏡のことが見えない）ちょっと！

Scene 出発 2

（議事堂地下（裏方1・裏方2・裏方3・裏方4・鏡）

裏方1　はいはい本議会の開幕、初日いよいよ明日だよー。リハの準備オッケー？
裏方2　オッケーです！

裏方1は男性、2は女性。1は舞台監督、2は大道具さん。手前ドアからやって来る。
「議事堂」と筆文字で書かれた黒Tシャツに、軍手、ガチ袋など、いかにものいでたち。
裏方1はキャップを、2はヘルメットを被っている。
官僚4は奥ドアに去っていき、以降、鏡は木枠の後ろに隠れたまま、木枠から舞台上を覗く。

裏方1　（箱椅子を見て）いやこれ出っぱなしだろうか！何を見たんだその目は、
裏方2　すいやせん！
裏方1　いったい何を見たんですかあ。（やけに優しく笑顔で言う）
裏方2　すいやせん！

裏方1　テクリハ前の袖幕チェックと、バミりはオーケーだよね。
裏方2　はい！
裏方1　じゃあとはそれはワラってあっちはコロしてそっちはトばしといて。
裏方2　はい！
裏方1　（笑顔を作って優しく）：よろぴこ。
裏方2　（中央奥の箱椅子をハジに寄せる）
裏方1　（インカムに）あーそっち暗幕足りてる？ え、なに。どした？
鏡　（恐る恐る木枠から出て裏方2に言う）あ、あの：。
裏方3　（手前ドアからやって来て裏方2に）まいったどうしよう、こっちに何も移動させてないよね。
鏡　（慌てて再び木枠の後ろに隠れる）

裏方3は男性。衣装さん。議事堂Tシャツで手首には針刺し。

裏方2　なに。なんかあった。
裏方3　いや俺は触ってないんだけどさ、なんかないんだってさ。どうすんだよ。
裏方2　なにがだよ。
裏方1　（笑顔を作って）ねえ、上は全部見たのー？
裏方3　あ、見ました、全員で手分けして：、
裏方1　（インカムに）あーそっち一応まだ探して、調達先探すから。ああ。
裏方2　（裏方3に）なにがないんだよ。
裏方1　（笑顔を作って裏方3に）どのタイプー？
裏方3　あー：（手に持っていた紙を見て）Dの7です。
裏方1　（猛ダッシュで走って奥ドアの中へ去る）
裏方2　（裏方3に）おい！ なにがないんだよー
裏方3　ウィッグだよ。首相の。今はネットだけ被せてある。
裏方2　え。まずいじゃん…。
裏方1　（奥ドアから戻り、映写パネルに向かってリモコンを操作）

映像イン。内閣発足時のライブニュース映像。

裏方1　ああ、こん時のだ。

裏方らは立膝をつく。鏡は木枠を持ったまま映像の見える所に移動。

映像はライブニュース。
声　「えー綱元内閣発足です。綱元内閣発足です。今、綱元首相が上手から登場し、赤い階段の書き割りの前に、立ちました。赤い階段の書き割りの前に、立ちました。」
（議事堂Tシャツの裏方たちが書き割りを支えているのが見切れている）
声　「えー今、立ち位置の目印となる、バミりの上に、綱元首相、立ちました。」
（バッテンの蓄光テープの上に立つ足元の映像。そしてストロボが光る）
声　「今一斉に、カメラのフラッシュを表現するストロボライト、KM14が点灯しています。」
（そして裏方たちが、綱元の両脇に黒い人型の書き割りを置いていく）

声　「えー新内閣の顔ぶれは、財務大臣に書き割り大臣、総務大臣に書き割り大臣、法務大臣に書き割り大臣、外務大臣に書き割り大臣…」
（いちいち書き割りのアップが映る）

思わず木枠から身を乗り出して映像を見ている鏡。裏方1がリモコン操作して映像オフ。

裏方2　あれ替えのないやつじゃん…、
裏方1　（リモコンを奥ドアの中へ思い切り投げつけてから笑顔を作り）はいはい明日の初日に間に合わせるよー。
裏方3　あ、あの、あれは特注品なんでどこにも、
裏方1　（更に笑顔を作って）あーそう。じゃあとりあえずここも探してねー（スマホで通話）あ、松竹衣装さん？お前そっち探せ：　（そして上手側の箱椅子を退かして探す。箱椅子は端に寄せる）
裏方2　まずいよお。オカさんの笑顔がどんどん：　（下手側の箱椅子を移動。端に寄せる）
裏方3　：あ、あの。何してるんですか。あの首相って：、　（木枠から出てくる）
鏡　　え？ここで何してんの？照明班？音響班？小道具班？明日から国会始まるよ、大丈夫？
裏方3　明日から、
裏方2　え、なんなのあんた？関係者以外立ち入り禁止なんですけど。
鏡　　いえ私は：（思わず逃げて上手の大きなゼンマイから伸びた鎖を掴む）
裏方3　あっ…、
裏方4　それに触るんじゃあねえ！
鏡　　…！
裏方2　ああもう何してくれんだよ：（駆け寄りゼンマイと鎖をチェック）

裏方4は、一番の古株大道具さん。奥ドアから悠々と入って来る。

裏方1　（一番の笑顔を作って）……あのね。そこは一番の要なの。わかってるよね～。不用意に動かしたら全部ひっくり返って、下手すりゃ死人が出るんだよ～。だから、気をつけて……。（優しい笑顔の圧）
鏡　　……はい。すみませんでした、
裏方4　参ったねえ。スノコとトヤとスッポンはスルメだったよ。置き部屋ももう一回ペラってサラった。
裏方3　あーどうすんだよ：、
裏方4　もう柿添倉庫さんまで行くしかないね。ダイハチハケちゃってるから、俺テッペンまでにトランポすんよ。
裏方2　いやそんな、
裏方1　ここは私が、
裏方4　いや俺もうコウバン回ったしブカンはカゲザクでダゴでしょう。ポン。（鏡に）あ。あんたガネロッピ？
鏡　　へ？
裏方2　ああなんだ、ガネロッピなの？なに？デコロク？マッパオリ？
鏡　　：あー…、まあはい。
裏方2　ポン。
裏方ら　ポン。（口々に）
裏方4　じゃ一緒に来い。
鏡　　え？
裏方1　（インカムに）通用口と門、開けて。今、ムラさん出るから。ああ、
裏方3　（横長の木枠を縦長に持ち、ドアを開けるようにそれを開く）さあ乗って。
鏡　　いえあの、

裏方４　さあさあさあ。（鏡の頭を押し込み、自分も乗り込む）
裏方３　（木枠をドアのように閉める）（※ドアの閉まる音。木枠は鏡が持つ）
裏方２　ムラさん気をつけて。
裏方４　（エンジンをかける）　（※エンジン音、スタート）
裏方３　オラーイ、オラーイ！
裏方１　オッケームラさん。上、開くよー。

大きな鉄の扉が開く音。照明が徐々に明るくなっていきながら。

裏方４　やっちん、かもきゅう、ひらおか選手、あとよろぴこ。
鏡　いえごめんなさい、違うんですよ、私、
裏方４　（いくつかボタンを押しハンドルを持つ）
鏡　はあ：（と、ため息をついてうつむく）

するとプロペラの回る音、スタート。
裏方４と鏡、中腰だったが音に合わせて立ち上がっていく。裏方らは風を受ける。

鏡　…えっ？ これ車じゃないんですか。
裏方１　ムラさん気をつけてー……！
鏡　どこまで行くんですかーー！

ヘリコプターの飛行音。音楽イン。
ムラさんの操縦で旋回するヘリコプター、舞台中央へ。
残された裏方らは上を見上げて手を振り遠ざかっていくように移動し、一旦、舞台裏ドアへ去る。

そして音楽のタイミングに合わせて、裏方たちが上空から見た風景の書き割りを掲げやって来る。
順番にヘリの前をゆっくりと通過していく。
まず「東京タワー」そして「富士山」続いて「夫婦岩」「名古屋城」。
木枠にへばりついてそれを見ている鏡。

鏡　書き割り：？

そして書き割りは「通天閣」「鳴門の渦潮」「熊本城」「平和祈念の像」と続き、

鏡　長崎：：？！

そのまま裏方らは奥ドアへ去る。鏡は木枠の外の風景に釘付けのまま。
ムラさんが再びヘリを旋回させ、二人も開いたままの奥ドアに去っていく。
プロペラ音が遠ざかり、ドアが閉まる。音楽のまま映像イン。

Film 往路

ライブニュース。オープニングの、煙を上げて回転する議事堂。

声「この日、裏方たちが一斉に棍棒を押し回し、かつての政府が議事堂ごと、切り込み式の盆の上で大回転。」
（奈落の映像。真剣な表情で棍棒を押し、人力で舞台を回す初老裏方たち。その表情、手、足のアップ。）

声「そうして見事、場面転換を果たしてから、三日目の夜を迎えようとしています。」
（花に囲まれた議事堂。陽の暮れていく千代田区周辺。そのまま上空へ。）

日本列島の衛星写真。九州に寄っていくと、九州の西、対馬と福江島の間に、見慣れない島がある。

島の夜の様子。島の海岸は全て切り立った崖で港はない。陸地も岩場ばかりで緑がない。
ひどく高い崖に囲まれた町。その外れに寂れた村。その間に細い川。
そして町の夜の風景。崩れかけた石造りの家が固まっていて、そこから蒸気が立っている。

文字「大 入 県（おおいりけん）」。
町の入り口らしいところに朽ちかけた看板、「演 劇 の ま ち」。

Scene 故郷 1

（大入県平台町（警官・男・女・鏡）

映像オフ。鋭い風の音。暗転中板付。暗転のまま、鏡、スマホのライトを照らす。
ライトは客席を向いていて、鏡の姿は見えない。

鏡　ムラさーん…。

するとけたゝましくサイレンが鳴り、屋外拡声器の割れた音声が島中に響き渡る。鋭い口調。

拡声器　「スマホは電源からお切りください。スマホは電源からお切りください」
鏡　え：（と、スマホのライトを後ろに向ける）

するとそこに、お茶碗を持った警官がお箸で白米を食べながら立っている。鏡を見ている。

鏡　あっ、びっくりした。何してるんですか。
警官　パトロールだよ。（白米を食べる）
鏡　：なんでごはんを、

奥のドアを開け、頭に街灯を乗せた男が、二人を見ながらやって来る。暗めに明転。

警官　あんたなに。ここで何してんの。
鏡　（街灯男を見ながら）あ。私、はぐれちゃって、
警官　（話を聞かずに舞台裏ドアの中へ去っていく）
鏡　（街灯男を見たまま）あの、頭に手拭い被った人、見ませんでした？ それかカキゾエ倉庫さんっていう：
警官　（舞台裏ドアから味噌汁を持って戻ってくる）
鏡　：え。
警官　なに。（味噌汁を飲む）
鏡　お味噌汁？

警官　でなに。ここで何してんの。
鏡　だからあの、私ここ初めてで、
警官　（聞かずにまた舞台裏ドアへ向かう）
鏡　ちょっと‥、
警官　なに。
鏡　なにしてるんですか、
警官　三角食べだよ。
鏡　パトロール中に？
警官　ああ。
鏡　ご飯と味噌汁と、‥おかずを？
警官　いや。一汁、三菜だよ。
鏡　‥いちいち？！

ジャーンとオーケストラの音色。警官と街灯男、さっさと舞台裏ドアへ向かう。

鏡　なに今の音‥

警官と街灯男がドアを閉めると、暗転していってしまう。

鏡（声）　あ、なに？　すいません、すいませーん！

警官がドアを開けると、暗めに明転。帽子を取り、上着を脱ぎかけている。

警官　なんですか？
鏡　あ。いえあの、ここ交番、ですよね‥、
警官　いや？
鏡　いえご自宅でもいいんですけどあの、私、ここ初めてで。人とはぐれて、もうどうしていいか……。

すると悲しげなオーケストラの音色。警官がドアを閉め、暗転していってしまう。

鏡　‥あっちょっとまた。なんで！

街頭男がドアから出てくると明転。街灯男は街灯を外す。（以降「男」）
すると雰囲気のある照明に変わり、オーケストラが小さく聞こえ出す。

男　‥ここは陽の射さない島です。切り立った崖に囲まれて、昼も夜のように暗く、夜の闇は一層深い。
鏡　あ、はい。
男　なのに電気が来てないんですよ。
鏡　え？
男　舞台照明しか。
鏡　……は？
男　なので我々はこうして常に。でないと……。

ドレスを着た女、悲しげなオペラを歌いながら奥ドアからやって来る。
警官は舞台奥から、崖に囲まれた家々に色とりどりの明かりが灯る書き割りを掲げて戻ってくる。

男　（書き割りを指し）ああ…あの町の灯りも全てがそうです。どこであれ誰もが常に、何らかの演目を…。生まれてから死ぬまで昼夜を問わず、何らかの演目を……。

鏡　……あーじゃああの、お店でも何でもいいんですけど、どこかに、

男　ここにはオーケストラピットしかありません。彼らを呼んでいるお陰でこの島の財政は…、

鏡　は？（歌う女を見て）生演奏？！

男　（振り返り驚く）ああっ…！しかも今日は、オペラ歌手まで……、

鏡　オーケストラどこ…（オーケストラピットを探す）

そして唐突にガコン、ギリギリと軋む音。
男と警官と女、足だけで横移動を始める。

鏡　あ…、回り舞台…？？

男　国からの資金も我々の税金も、全てこれらに費やされて。我々の生活は……、（移動しながら）

鏡　え、ちょっと待って、どういうことですか。「演劇のまち」ってこういう…？

男　我々の生活は……！（移動しながら）

横移動のまま三人が奥ドアへ去り、音楽フェードアウト同時に、ヘリコプターの飛び立つ音。

鏡　あっ…ちょっとムラさん？　置いてかないで！待って！ムラさーん…！

ヘリコプターの音が近づき、そして飛び去っていく。

鏡　……。ああ…（膝をつく）

すると鏡にピンスポが当たる。え…？と思う鏡。

Scene 故郷 2　―大入県奈落村（地絣・檜山・一文字・山台・鏡）

地絣（声）　あんたそこで何してる。

客席間に照明。地絣幕郎60代、古びたカンテラを持って立っている。

地絣　あのヘリに乗って来たのか。

鏡　あ、はい…、

地絣　大丈夫か。どこか怪我でもしたのか。（と舞台の方へ）

鏡　いえ大丈夫です、つかあの、さっきの人たち…（立ち上がる）

地絣　ああ場転したよ。

鏡　（地絣を見る）

地絣　場面転換。（そしてカンテラを下手側のゼンマイの辺りに掛け、下手側の箱椅子を取る）

檜山　得体の知れない子を家に入れるなんて、私は賛成しないね。（奥ドアからブリキの洗濯カゴを持って

やって来る）

照明、古い屋内に。檜山花那も60代。二人の服装は、19世紀ヨーロッパの貧しい庶民風。

地絣　だって放っておけないだろう。
檜山　ああ川から戻ってそのままじゃ汚いじゃないか。手を洗ってきな。
鏡　え、ここは：
檜山　奈落村だよ。そこの平台町から深い川を隔てた辺鄙な村さ。
鏡　あー：：
地絣　あんた名前は。
鏡　あ：鏡です。鏡紗良（かがみさら）。
地絣　ああ。（立ち上がり）網元まことの父親役の、地絣幕郎（じがすりばくろう）です。（握手）
檜山　同じく網元まことの母親役の、檜山花那（ひやまかな）です。（おじぎ）
鏡　え……。網元首相の：、
地絣　あああいつはここで生まれたよ。その崖の上に住む産婆役の、袖川存美（そでがわありみ）さんの手によってな。
鏡　……役？
檜山　ほらあんた、早く手を洗ってきな。もうすぐ食事だよ。（洗濯カゴから洗濯物を出して棚に置くマイム）
地絣　ところであんた寝る場所はあるのかい。腹は減ってないかい。（舞台奥で蛇口を捻り、手を洗うマイム）
檜山　やめとくれよ。ここにはなーんにもないんだよ。（食事の支度のマイム）
地絣　でも放っておくわけいかないだろう。死んじまうよ。（手を洗うマイム）
檜山　しょうがないねえ。（食事の支度のマイム）
鏡　：。（しばし二人のマイムを見る）

一文字響平18才、大きな布袋を持って奥ドアから急ぎやって来る。

地絣　おいどうしたその荷物は。（壁に掛かったタオルで手を拭くマイムなど続けながら）
一文字　（鏡に）あ、あのヘリまた来ますよね、
檜山　あんたも手を洗ってきな。もうすぐ食事だよ。（食事の支度のマイムを続けながら）
一文字　いや違うから俺。こういうんじゃないから、ほんと、
鏡　はあ。
一文字　だからヘリ来たら一緒に、
鏡　え、
一文字　だって食べるもんもないんですよ。なのにこいつらずっとこんな、（二人のマイムを見ながら）
鏡　ああ：。
一文字　やばいよ、助けてよ、
地絣　何言ってんだ。お前のためにちゃんと準備をしてるだろう。
一文字　は？
地絣　いま発明家役の山台鎮信（やまだいしげのぶ）さんが、お前のための蒸気船か気球だかを作るために、日夜ロスコマシーンでスモークを炊いて、懸命に効果音を打ち鳴らしているだろうが。

19世紀風ゴーグルをつけた怪しいでたちの白髪の山台さん50代、
頭から蒸気を出しながら奥ドアよりやって来て、鉄板をスパナで叩いて音を出す。

地絣　これのなにが不満なんだ。
一文字　なんだよやめろよ、うるさいよ、（山台のスパナを奪う）
地絣　まったくお前は。働く演技も家族を手伝う演技もせず、ただ漫然と過ごす演技ばかりを、
一文字　だからそれが、
地絣　少しは家族を敬う演技をしろ！
一文字　（鏡に）とりあえず向こう行こう、
地絣　おい！
一文字　（地絣に）もう嫌なんだよ、こんな生活！
地絣　（一文字の頬を思い切り平手打ちする）
一文字　…！
地絣　真実味がない！
一文字　……は？
地絣　登場からもう一度。（立ち位置に戻る）
檜山　（鏡に）網元まことの息子役の、一文字響平（いちもんじきょうへい）です。
地絣　（手を叩く）

そして一文字の演技を待つ、地絣ら。

一文字　（耐えきれず、手前ドアに走り去っていく）
鏡　あ、ちょっと待って。（一文字を追って手前ドアに去っていく）
檜山　こら、待ちなさい…！（食器を放り投げるマイム、一文字を追って手前ドアに去っていく）

オーケストラの音色。照明変わる。ブル転。
地絣と山台、サッと正面を向くとスタスタと無表情で奥ドアへ下がっていく。

Scene 故郷 3

一大入県奈落村（桐囃子・九呉・檜山・一文字・鏡）

檜山と一文字が手前ドアからやって来る。一文字はスパナを持ったまま。

檜山　まったくこの子は。暗闇を走り回って、川で転ぶなんて。（一文字を掴み、霧吹きで水を吹きかける）
一文字　やめろよ、離せよ、転んでねえよ。
檜山　（無言で一文字に霧吹きし続ける）
鏡　（手前ドアからやって来て）あ。…何してんですか？
檜山　（霧吹きし続け）まったく、反抗的な演技ばっかり。
一文字　演技じゃねえって…、

ギギギギギと軋む音を立てて奥のドアが開き、九呉国麿（年齢不詳）、斧を持ってやって来る。
肩か腰に小さな袋。ボタンのないシンプルな服装。おかっぱか長髪を縛った髪型。異様な雰囲気。

九呉　ああ。リアリズムだ。……写実主義的演技だ。（そして斧を三人に向け）もう少し待て。いま来る。
檜山　（一文字に）さあほら座んな。（鏡に）あんたもほら。
一文字　…。（仕方なく箱椅子に座る）

九呉　（斧を鏡に向ける）…お前。……何ヶ月だ。
鏡　え？ ああ‥、五ヶ月です、（自分のお腹を見て）
檜山　え？ ああやだそうなの？ごめんなさい。ああもうちゃんと食べてる？
鏡　ああ‥
檜山　ほら顔ももっとふっくらさせて乳房ももっとこう。でないとそれらしくないじゃない。（鏡を触りながら）
鏡　あ、いや、そういうんじゃ‥、
檜山　ほらお腹ももっとこう、（などと鏡のお腹をぐいぐい押すなど）
鏡　やめてください、やめて、
九呉　（そのスカートに素早く潜り込み）生命力！ もっと子宮を蹴りあげろ。
鏡　あ。ちょっ、
九呉　（スカートの中で）お前はなんの夢を見ているのかー！
桐囃子　はい、そこまで。

和洋折衷な服装の桐囃子鳴海80代、奥ドアから杖をつきながらやって来る。

桐囃子　一文字くんにタオルを。あと暖かいお茶でも出してやりなさい。
九呉　（乱暴にタオルを取るマイム）
桐囃子　何だその手つきは。（杖で九呉を叩き）質感。タオルの質感だよ。お前は何度言ったらわかるんだ。
鏡　（執拗に何度も叩き続ける）
一文字　あ、ちょっと、
桐囃子　やめろよ、やめろって、（桐囃子を止める）
一文字　なんだその止め方は（杖を振り回し）お前にはまるで真実味がないんだよ！（まるで真実味のない体勢）
桐囃子　あんたの方が、
檜山　時にはデフォルメも必要なんだよ。（真実味のない体勢を見せつける）
桐囃子　先生。アンガーマネジメント、アンガーマネジメント。
檜山　（真実味のない体勢をやめる）
九呉　（鏡に）演出家の桐囃子鳴海（きりばやしなるみ）先生よ。この島の総合演出を‥
桐囃子　（一文字にタオルを渡すマイム）
九呉　（その手を素早く掴んで優しく）質感。（そして手にキス）
鏡　（とてもていねいに渡すマイム）
桐囃子　あ…あの、
檜山　ん？
鏡　ここでは皆さん、その‥‥。
桐囃子　ああ。この島は昔から演劇が盛んだ。昌泰4年には太宰府に左遷された菅原道真が、失意の癒しにと密かにこの島を訪れてね。そんとき道真さまに死の床につく演技のダメ出しをされて以来、あいつは死ねずに、ずーっと稽古中だ。
鏡　え…（九呉を見る）
九呉　（後ろでお茶を入れるマイムを始める）
檜山　桐囃子さんは代々演出家業をつぐ方なの。もう百‥何代目だったかしら。
桐囃子　（箱椅子に座る）
檜山　大変な方なのよ。島全体を演出されるんだから。それはもう壮大なことよ。（箱椅子に座る）
鏡　はあ‥。（九呉を見たまま箱椅子に座る）
桐囃子　しかし今や座組みは彼らと、さっきの二人だけだ。

鏡　あ。……あの警官さんたちも、
檜山　そう。今はね、六人だけ。この六人だけで島の全人口、八百人を兼ね役してるから。
鏡　…え？
檜山　そりゃもう大変よ、早替えに次ぐ早替えで。
鏡　八百人を？
桐囃子　ああ。そうして何とかやってはきたが、勿論インフラは止まり衣装小道具も使い回し。ケータリングもとれずに皆手弁当。ギャラも滞って…やむなく、ノルマを…、
檜山　ほら…助成金もなかなかねえ、簡単じゃないから…、
鏡　…はあ。
檜山　それもこれも、若いのが支えていかなきゃならないところをほらあんな。ね？（一文字を見て）綱元の息子役なんて、そんな大役ほんとはなかなか…、
鏡　あ。綱元首相はここの…、
檜山　首相？
九呉　（慎重に四人にお茶を出すマイムを始める）
鏡　あー綱元まことはここの…、
桐囃子　ああ。この島の出身だ。……いい役者だったよ。
檜山　男っぷりも良くてね。
桐囃子　島全体があいつに酔いしれたもんだ。
檜山　あれは忘れもしない、夏の日のことだった。火傷するような崖の上にね、彼は突然登ったの。
桐囃子　ああ。登り切ってあいつは言ったね。人口が減り寂れていくばかりのこの島を、俺が必ず立て直すと。
檜山　そりゃ彼が出てくのはみんな嫌だったけど、誰も何も言えなかった。
桐囃子　その日の夜はもう大宴会でね。
檜山　そうそう。…そんな綱元の息子役だよ？ しっかり務めなきゃ。（そしてお茶を飲むマイムを丁寧に）
桐囃子　ほら。お前も暖かいお茶を飲みなさい。（そしてお茶を飲むマイムを丁寧に）
一文字　（立ち上がって桐囃子の元に行き、その手を思いきり叩く）
桐囃子　あっ…！（お茶を被って熱がる迫真のマイム）
檜山　響平！
一文字　くだらないよ。（鏡に）行こう、
鏡　でもあの。…綱元まことはここへはなにも？
檜山　あれから音沙汰なしよ。
鏡　でも資金とかインフラだって、
桐囃子　あれが最後に見た姿だよ。
鏡　でも、
檜山　私たちはずーっと待ってるのよ。いつか大成功して帰ってくるのを。
鏡　だったら、
一文字　だから裏切ったんだって。とっくの昔に見捨てたんだよ。もういい加減、諦めろよ…、
鏡　…え。いつなんですか？ 綱元がここを出ていったのは。
一文字　俺も出てくから。（鏡に）行こう、
桐囃子　行け。勝手にしろ。
檜山　先生、
桐囃子　どこでへも行ってしまえばいい。
檜山　でも五人じゃなにも、
九呉　（檜山の肩を後ろから掴み）私が。

檜山　（それを振り払い）離して。あんたなんか必要ないのよ！
全員　（自然と九呉を見る）
九呉　（自分の後ろを見る）
檜山　あんたの台詞よ！（九呉にお茶を投げるマイム）
桐囃子　あっつ…！（熱いお茶が全身にかかった迫真のマイム）
一文字　もう行こう。
鏡　あ。じゃあワークショップ。ワークショップしましょう。
檜山　…え？
鏡　ほら演技ワークショップ。ね？ 県外から人を呼べばいいんですよ。宣伝も沢山して。ね？ いつから開始しますか、私戻ったらすぐ準備を。
鏡以外　……。
桐囃子　いやそれはいいよ…。
一文字　（舞台奥でスパナを放り投げる）
鏡　だって今、国中がなんかすごい好景気なんですよ。絶対成功しますから。
桐囃子　もう遅いんだよ。
鏡　え？
桐囃子　もう遅いんだ。

オーケストラの音色、聞こえてくる。照明、美しく煌びやかに変わる。

鏡　あ…オーケストラ。どこで……。（音の出どころを探す）
桐囃子・檜山　…。（箱椅子を移動させ上手と下手の奥に並べ始める）
鏡　（探しながら）いやでもほんとすごい好景気なんですって。なんでもやってみましょうよ。
桐囃子　悪いな。それは出来ないんだよ……。
鏡　え、なんですか。（振り返る）
桐囃子　我々は、…プロジェクションマッピングだ。（美しく並んでいる島民たち）
鏡　……え？
桐囃子　この島を囲む崖に投影された、プロジェクションマッピングなんだよ。（更に美しく並ぶ島民たち）
鏡　……は？
桐囃子　だからすまない。

遠くからヘリコプターの近づいてくる音、聞こえてくる。

鏡　あっ…、戻ってきてくれたんだ…、ムラさん、ここです！

ヘリコプターのサーチライトで照明が明るくなっていく。

鏡　響平くん、来る？

プロペラ音が大きくなり、照明が眩しく明るくなっていくと、
桐囃子、檜山、一文字、揺蕩い始める。

鏡　えっ…響平くんも…？！

一文字　……。（鏡を見ながら奥ドアの中へ揺蕩っていく）
檜山　……。（下手側にかかったカンテラを取って奥ドアの中へ揺蕩っていく）
桐囃子　我々のことは気にするな。ただのプロジェクションマッピングだよー…（消えていくように奥ドアの中へ）
鏡　待って…！（思わず追うが）
桐囃子　（奥ドアを閉める）
鏡　……。（そして振り返ると九呉が立っている）……あ。
九呉　私は実体だ。
鏡　……？
九呉　彼らは全て、島の記憶だ。

映像イン。サーチライトの灯りで、街の古びた看板が見え始める。ヘリの音は一旦、遠のく。
「大入県・板付市平台町・奈落村　その歴史」そして看板の文字を中年女性の声が読み上げる。
「この島は切り立った崖のおかげあらゆる大乱を免れ、第一次第二次世界大戦でもその存在を無視されました。
そうして戦火を免れたものの、高度成長期を迎えた１９５５年から人口の流出が始まり、
１９６０年には島民の数は半分に。１９７０年代にも流出は一向に止まらず、
１９８３年６月をもって市町村及び、県が消滅しました。」

鏡　……どういうこと？

そして再びヘリの音が聞こえてくる。一旦、映像オフ。

鏡　あっ…、待ってムラさん…！ ムラさーん……！（手前ドアに走り去っていく）
九呉　……。（しばし一人佇むも、やがて斧とスパナを拾い、鏡を追って手前ドアに走り去っていく）

Film 帰路

鏡と九呉の乗ったヘリコプターの書き割りが空を飛ぶ。窓越しの上空の風景。
上空は夜が明け、青空から徐々に、色々な色が混ざり濁った色に変わっていく。
そして東京上空。マーブル状に濁った空気が渦巻いている。有楽町の街がカラフルな腐敗ガスに包まれている。

ライブニュース映像。
声「えー。こちら千代田区有楽町の映像です。
昨日の深夜３時頃、有楽町駅付近で原因不明の爆発が起き、何らかの腐敗ガスが発生。
周辺10㎞の空気が汚染されています。ちょうど環状七号線の内側全域が、汚染されていると思われます。」
（街全体がカラフルに汚染されている様子。）
声「特にガスの濃度が高い有楽町駅周辺では厳戒態勢が敷かれＪＲ地下鉄共に一時運休。人の姿はほぼ見られません」
（ビルを背にした日比谷公園。汚染空気に包まれている。沢山咲いていた花は萎れている。）

Scene 帰還 1　一日比谷公園（官僚1・官僚2・元加害者・元被害者・大黒・お爺さん1）

映像終わりからサイレン音とニュース音声。暗転中に板付＆移動。

声「この腐敗ガスはむせかえるほど濃厚な、甘ったるい匂いで、ガスに包まれると息をするのも難しくなり、吸い込めば吐き気をもよおします。非常に甘く、腐り切った匂いです。ご注意ください。」

そしてサイレン音の終わりと共に明転。

Scene「出発1」の官僚1と2が座っている。上手側に官僚1、下手側に官僚2。離れている。

官僚2　なんだ今のサイレン。
官僚1　ええ。
官僚2　なんで誰もいないんだ。
官僚1　ねえ。
官僚2　あの二人はどうした。
官僚1　さあ。
官僚2　朝練しようって言ったのは絹田さんだったでしょう。
官僚1　ええ。
官僚2　なんで来ないんだ。
官僚1　ねえ。
官僚2　なんで一言しか喋らないんだ。
官僚1　朝は弱いんですよ。
官僚2　（立ち上がって）私だって弱いよ！ほら今だって立ちくらみしましたよ！
官僚1　（官僚1を見て）……しましたか？
官僚2　したよ。
官僚1　（見たまま間）
官僚2　したよ。
官僚1　じゃ。そこのコンビニで珈琲でも買ってきますね。

官僚1、手前ドアへ向かっていく。

するとマスクをつけたScene「幸せ1」の元加害者と元被害者が手前ドアを開けてやって来る。

元加害者　ああダメだ。こんなマスクなんかじゃぜんぜん…。
元被害者　ええ。
元加害者　これじゃ余計に苦しいや。（マスクを外す）
元被害者　そうですね。（強い吐き気をもよおす）
元加害者　あーもう。朝まで遊んでないで早く帰ればよかった…。
元被害者　ああ…ダメだ……、（ドア中へ倒れ込むように去る）
元加害者　おい、大丈夫か…、
官僚1　どうしました。どこかお具合でも？
官僚2　救急車をお呼びしましょうか。
元加害者　…え。あなた、大丈夫なんですか。
官僚2　なにがです？
元加害者　この匂い…
官僚2　え？別に。
官僚1　いい匂いです。
官僚2　ええ。むしろなんだか懐かしい、魅惑的な香りじゃないですか。

安っぽくわざとらしい女の声が屋外スピーカーから流れだす。

スピーカー「ハピハピィ今日もしぃあわせにぃ過っごしましょう！イェイ！今日も一日パ・ラ・ダ・イ・ス♡あっは、グゥゥゥッモーニンッ♡」

元加害者　なにこれ…。

官僚１　ああこれ。今日から毎朝、全国の自治体で流れますので。

元加害者　え？これが…？

官僚１　いやほら。国民の幸せのためにそれはもう潤沢な資金がここらの各省庁に今後、支給されるはずなんで。

元加害者　はあ。

官僚２　なので今朝から一斉に、関連委員会や関連団体が立ち上がりましてね。

官僚１　ええ確か…幸せ推進委員会とハッピー支援振興会とスマイル機構にラッキー学会にほほえみ会議にハピネスネットにニッコリセンターに、

元加害者　そんなに。

官僚１　ええもう見事一気に、乱立いたしました。

官僚２　私共もニヤニヤ連盟やニタニタ同盟やクスクス連合やガハハハ組合の理事や幹部を、色々と掛け持ちで。

元加害者　そこ何するんですか。

官僚１　今日はヘラヘラ事業団が幸せ促進ＣＭを５兆円かけて。ねえ。作らせますから。

元加害者　…どこにですか。

官僚２　だからほら、そんな不幸そうな顔してここらを歩いてたら、わたしらの体裁が悪い。

官僚１　ええほんとに。だからほら、笑ってください。

元加害者　いやでも、

官僚２　早く。笑って。さあ。

官僚１・２　（手を叩いて声を揃えて）笑え。笑え。笑え。笑え。

そこで奥ドアがかすかに開き、銃声。

元加害者　？！（片足を撃ち抜かれる）

官僚１　あ、先生。

恐ろしげな音楽イン。蛍光色のベストを着たお爺さん１が、拳銃を持ち奥ドアからやって来る。その後ろから大黒がやって来る。Scene「幸せ２」の時とは違うモノトーンの素敵な衣装と帽子。ぐったりとして動かない犬をリードで引きずっている。

官僚１　この方は？

大黒　ああ。シルバーほっこりセンターのほっこりクルーの方。

官僚２　（元被害者に）ね。こちらの元議員の先生が、全ての団体の顧問を勤めて下さってるんで。なのでどこも、ちゃーんとした団体ですよ。ご安心を。

元加害者　（うめく）

官僚２　じゃ連れてって。

官僚１　ご苦労さま。

大黒　はいほっこり。

お爺さん、ほっこり笑う。そしてうめく元被害者を抱えて奥ドアへ向かう。

大黒　なんだか清々しい朝ね。昨日までが嘘のよう。（そして恐ろしげな音楽を鳴らす屋外スピーカーを見上げ）ああほら、もう始業時間よ。行きなさい。

官僚1　（屋外スピーカーを見上げて）：え？ ああこれ始業の、

官僚2　（屋外スピーカーを見上げて）：あ！、この曲、先生のチョイスですか、

官僚1　さすがセンスがいい。ねえ。今日もたいへんお美しくて、

官僚2　ええもうほら、スタイルもばっちりで。ねえ。

大黒　（前を通り過ぎるお爺さん1の腰から拳銃をとって官僚1・2を撃つ）

官僚1・2　：？！

大黒　五月蝿いのよ。（拳銃を放り投げ）これもよろしくね。（官僚1・2をドア内に蹴り入れる）

お爺さん1　（恐れ慄く）

大黒　はいほっこり。

お爺さん1　（ほっこり笑ってから、元被害者を抱えて急ぎ奥ドアへ去って行く）

鏡と九呉、舞台裏ドアから顔を覗かす。二人とも鼻と口を覆う防塵マスクをしている。

大黒　さ。メリーちゃん行きましょう。

大黒、動かない犬をやたら振り回してから、奥ドアへ。去り際にスマホで通話。

大黒　ああもしもし？　…ああもうなに。早く電話に出てちょうだい。（去ってドア閉める）

Scene 帰還 2　一日比谷公園（鏡・九呉・陛下・戸柿・母1）

遠雷の音で音楽オフ。鏡と九呉、ドアから出て来る。鏡はスパナを、九呉は斧を持っている。

鏡　なに今の：。すごい腐敗してる。　（※防塵マスクは話しながら外して首にかける）

九呉　なんと。東国（とうごく）はかような地であったか。（※防塵マスクは話しながら外して首にかける）

鏡　ねえ、綱元はいつあの島を出たの？ あの首相は綱元じゃないの？ ちょっともう一回議事堂に戻って：

九呉　待て。またムラさんに追い出されたいか。お前、ガネロッピじゃないんだろ。

鏡　え。それってなんなの。

九呉　演劇用語だ。常識だ。

奥ドアが開き、七三分けに燕尾服の陛下、息を切らしてやって来る。

陛下　ああ、お二方。この匂いはいったい何なのでしょう。何が起きているのでしょう。

鏡　あっ：あなたは：：、

陛下　はい。（手を振る）わたくしそこの桜田門近くでお堀に飛び込み、お堀を泳いで参りました。

鏡　お堀を？

陛下　はい。そうしてとりあえずこの中央合同庁舎第6号館に身を潜めていたのですが：（奥ドアを指す）

鏡　はあ。（奥ドアを見る）

陛下　ああ。こちらには法務省の各機関がございまして、立法についての諸々を行っているのですが、

九呉　さても…！　太政官（だじょうかん）は此処なりや？　正三位（おほきみつのくらゐ）は此処なりや？
陛下　は？
九呉　あな！おほきみ…！何故東国に居おはするや。
陛下　…え？
九呉　まあよし（奥ドアに向かって斧を振り上げ）なんぢら道真公の無念を知れりや…
鏡　あ。
九呉　今こそ道真公の無念を…！（空を仰ぎ、近雷の音が鳴り響く）おおおおお……！（そして奥ドアへ突進）
陛下　ああそのことならもう、太宰府に天満宮をね、（九呉を止める）
鏡　そのくだりはもうとっくに終わってるから。千…三十四年前に終わってるから。（九呉を止める）
九呉　え？そうなのか…？
鏡　うん。
九呉　そうなのか……。
陛下　…さりとてうたてし。いかがせむや？
鏡　え？
陛下　今なおこなたで何やら不穏なる謀（はかりごと）。なれでわれまた逃げそめて。あな。いかがせむや？いかがなりぬや？
鏡　あ、あの。大丈夫ですか。とりあえずどこかで服を乾かして…。
陛下　あな！まあちゃんとあいちゃんはいづこへ行ききや？
鏡　え？
陛下　まあちゃん、あいちゃん、（手前ドアへ向かっていく）
鏡　あ、そこはコンビニ…
陛下　あいちゃーん…！（手前ドアに去っていく）

陛下が去ると同時に、近くに雷の落ちた音が響く。

鏡　（驚き）ああもうなに？春通り越してもう夏じゃない？なんか、あっつくなって来たけど。
九呉　梅も桜も、すでに咲いては散ったようだ。
鏡　え、もう？
九呉　あるじなしとて春な忘れそ。
鏡　？

手前ドアからガスマスクをした戸柿と白上下スーツの母1、コンビニ袋を持ってやって来る。
戸柿は「喫茶ビック」のベストを着たまま。コンビニ袋はパンパンに詰まっている。

戸柿　（コンビニ袋の中を見ながら母1に）こんなもんでいいかな。買い忘れないよね。
鏡　あ。…マスター？
戸柿　え？ああ鏡ちゃん。なんだあれからどこ行ってたの。全然連絡つかないから（ガスマスクを外し頭に乗せ）つかなんか今さ、凄いやんごとない方がカレーまんを…
鏡　あ、そちらは、
戸柿　ああ、母さん。
母1　（ガスマスクを外すとヤザワの髪型にヤザワの表情）母のヤザワです。（上半身を振りかぶっておじぎ）
鏡　ああ…。
戸柿　ってかさっきからやたら電話くるんだよ。鏡ちゃんの連絡先教えろって。とりあえず無視してるけど。

鏡　ああ…、
母1　（ヤザワらしい動きでウロウロする）
九呉　（それをただ見ている）
戸柿　もうしつこいから教えちゃっていいかな。
鏡　え？
戸柿　なんか急いでるみたいでさ。
鏡　いや。…教えないでください。
戸柿　え？ なんで。
鏡　とりあえずその電話、無視しておいてください。
戸柿　だって。
鏡　このガス、あのパフェですよね。
戸柿　え。
鏡　爆発したんですよね。
戸柿　あー……。
鏡　なんであんなものを。
戸柿　だって注文されたから。
鏡　なんで爆発を。
戸柿　だって鏡ちゃんが食べてくれないから。
鏡　は。
戸柿　鏡ちゃんが食べてくれたら。
鏡　無理ですよ、
戸柿　私だって無理だよ！ だから手伝ってって言ったじゃない。
鏡　はあ……。
母1　（下手端の箱椅子で九呉と話し込んでいる）だからさ。ヤザワはそう思うわけ。てめえの人生てめえで走れってね。
九呉　（うんうんと頷き涙している）
戸柿　…まあとりあえず電話はいいや、着拒しとくから。つかさっき店に強制捜査みたいのが来てさ、なんか公安とか？　だからちょっと俺たち逃げるから。
鏡　え、
戸柿　だってまずいじゃん。鏡ちゃんもだよ、ほら鏡ちゃんのせいなんだから。
鏡　…え。
戸柿　もし捕まったら俺言っちゃうよ。気が弱いんだから、意気地もないんだから、鏡ちゃんが全部悪いんですってそりゃ言うよ、もうほんとうにごめんなさい。
鏡　あー……。
戸柿　それとも一緒に来る？（とコンビニ袋の中を覗いて）ああでもそしたらフラッペ足りないからもう一個…あ、そしたらついでにじゃがりこも…。母さんごめん、俺ちょっと、

重低音の効いた車の音。何台もやって来る。

母1　ああやだ。送迎ベンツとファンのカスタムカーだわ。ごめん正司、母さんこれからライブがあるから。
戸柿　ああじゃあ乗せてって、
母1　その前にヤザワ、スイーツ買っていきます。（ステップを踏んで手前ドアへ去っていく）
九呉　フーッ！ 永ちゃん！永ちゃん、永ちゃん！永ちゃん、（永ちゃんコール。母1を追って去っていく）

戸柿　鏡ちゃんも一緒に来るでしょ？ライブ。
鏡　あー…。
戸柿　なにもう。どうなっても知らないよ！（手前ドアへ去っていく）

三人去り、車の音、遠ざかっていく。

Scene 帰還 3　一日比谷公園（鏡・九呉・金目鯛・和馬・アニサキス・子アニサキス）

少しすると、九呉が手前ドアから戻ってくる。

九呉　なんだ。行かないのか。
鏡　え？　あ、ごめん。行っていいよ。
九呉　……いや。いい。（下手側の箱椅子に座る。あからさまにがっかりしている）
鏡　…行きなよ。
九呉　……。
鏡　なんかさ。この辺だったんだよね。議事堂に続く地下道みたいなのが。…いやなんか、そこから行ったら地下に出るからさ。そこからこっそり、
九呉　行ってどうする。
鏡　だって気になるじゃん。あの首相って、
九呉　あの首相とやらは綱元じゃない。
鏡　なんでそんなことが分かるの。議事堂の地下は舞台裏みたいだったし、あの映像だって書き割り大臣とか…
九呉　（肩か腰につけた袋から黄ばんだクシャクシャの手紙を取り出す）
鏡　確かこの木の辺り…（柱の辺りを探し）あれ。なんかぜんぜん違うな。なんか木がもっとこう……、
九呉　……。（それを広げて伸ばして鏡に差し出す）
鏡　…ん？なにそれ。（手紙を受け取る）

映像イン。郷愁を誘う音楽。若き綱元まことの笑顔の写真を背景に、手紙の文字が流れる。綱元の声が流れる。
鏡と九呉は下手側の椅子に並んで座って手紙を読む。
綱元「元気ですか。こっちはハイユウ座とかミン芸とかあって、やっぱり凄いよ。
　それに今、寺山なんとかとか唐なんとかっていう、なかなか面白いのが出てきてる。
　でも島の俺たちの方がまったくもって進んでいるよ。俺が目にもの見せてやる。応援してください。」
そして封筒の文字「東京都江東区深川４ー５ー２橘荘１０２号　綱元まこと」「大入県板付市奈落村３　九呉国麿 様」

鏡　ねえあなたの名前。これなんて読むの？
九呉　ああ。くくれこくまろだ。
鏡　…あ。意外とカレーっぽい名前なんだね。
九呉　……。（鏡から手紙をとって、丁寧に畳む）（※映像と音楽オフ）
鏡　つかそれ何年前なの。寺山とかって…（スマホを出し）60年代？…60年以上前？
九呉　だからあれは違う。綱元が島を出たのは千九百六十年。二十五のときだ。
鏡　え。
九呉　もう八十九になる。
鏡　あー……、
九呉　だから無駄だ。別人だ。

鏡　ああ…、
九呉　だから行こう。
鏡　え？
九呉　武道館。
鏡　あー…（そしてスマホを操作）まあ。こっから歩いて40分か。（立ち上がる）
九呉　（客席に向かって歩き出す）

そこに手前ドアより、ペットボトルを持った金目鯛がやって来る。朱色の服に大きな目。

金目鯛　：あれ？なにうそ。
鏡　…え？
金目鯛　いやほら俺俺。金目鯛。
鏡　は？
金目鯛　うっそ。なんでこんなとこにいんの？びっくり。
鏡　……いや。
金目鯛　なにしてんだよ、こんなとこで。ありえなくない？（そして口をパクパクさせる）
和馬　うるさいよ。どうした？
鏡　あ。

手前ドアからコンビニ袋を持って板前姿の大黒和馬20代、やって来る。しっかりめの布マスク。
以降、金目鯛は基本的にゆらゆらし、口をパクパクさせがち。
九呉は箱椅子に座り袋から扇子を出して、何やら扇子をいじくり始める。

和馬　紗良ちゃん。なにしてるの。
鏡　和馬こそなに。なんでここにいんの。
和馬　いや、お使いで。ほら近くの店は全部閉まっててここしかやってなかったから…（コンビニ袋を見せる）
鏡　ああ。
和馬　ってか大丈夫なの。ここに居て。（マスクを下ろす）
鏡　え？
和馬　ほらこのガス。こんなとこに居たら…（鏡に近づく）
鏡　へえ店やってんだ。（和馬から離れる）
和馬　え？
鏡　料亭。こんな状況なのに。
和馬　ああ。なんかここらの官僚たちの予約ですごいよ。いっぱいだよ。
鏡　あー…。
和馬　ねえ。大丈夫なの。
鏡　なにが。
和馬　だからその……、
金目鯛　あーもう。お腹の子は大丈夫かって言ってんだよ。お前もはっきり喋れよ。あ？自分の子だろ？
和馬　ああそうだけどさ、
金目鯛　だったらびしっと言えばいいんだよ、イライラすんだよそういうの。
和馬　でも、
金目鯛　あんたもなんなんだよ、その態度。いいかげん腹決めろよ。

鏡　え？
金目鯛　俺には時間がないんだよ！
和馬　ああごめん。こいつ、鮮度がもうけっこう落ちてきてて…。
金目鯛　（口をしきりにパクパク。苦しみ出す）
和馬　ねえ。もう五ヶ月だよ。いい加減うちの両親に会ってくれよ。俺たちの婚約の時のためにこいつ、こうして懸命に、生きながらえてくれてるんだよ。
金目鯛　ああもう目が…目が…
和馬　それになんかこの暑さで…
鏡　えー……、
和馬　紗良ちゃんがまだって言うからさ、俺、言ってないよ。父さんにも母さんにも、誰にも。でもさ…、
鏡　うん、わかってるんだけど……、
アニサキス　えっ？なに？

アイスを持ったアニサキスが手前ドアからやって来る。

アニサキス　ああやだ…！しっかりして。大丈夫、大丈夫だから、（金目鯛に駆け寄る）
金目鯛　アニサキス、ごめん…もう俺、ああ体も糸を引いて…（悶え苦しむ）
和馬　俺はね、紗良ちゃんを皆んなにちゃんと紹介したいんだよ。そんで二人で一緒にさ…、
鏡　ああ…（アニサキスが気になる）
和馬　なにがあれなのかな。だめなのかな。
鏡　あー…だってほら。和馬とは別に全然そんなつもりじゃなかったんだし。でもちゃんと色々考えなきゃだし。でもなんか。色々まだで。
和馬　うんごめん。俺だって紗良ちゃんが嫌だって言うことはしたくないし、紗良ちゃんの意思を尊重したいよ。だから、ね？一緒に考えようって。
鏡　でも自分のことだし。
和馬　でもさ。その子は俺の、
鏡　その「俺の」ってのやめて！　自分のことだから。自分で決めたいから。だから待ってって言ってるの、
和馬　……ああ。そうだねごめん。その通りだ。
金目鯛　…そういうとこなんじゃないかなあ。俺が思うに。
和馬　え？
金目鯛　こういう時はガツッとやりゃあいいんだよ、有無を言わさず。じゃないとこいつ…
和馬　そんな、
金目鯛　自分の子供のこと第一に考えろよ、この女の意志なんて関係ねえだろ！
アニサキス　そうよ、このグズ！クソブスバカ女！
和馬　（驚き）なに言ってんだよ…！許さないぞ、
金目鯛　（ガハッと何かを吐き出す）ああっ身が、もう身が……、
アニサキス　やだやだキンメ！　キンメ……、（そして上手側の箱椅子を一つ中央に持ってきて金目鯛の支えにする）
和馬　……ごめん、いいんだよ。紗良ちゃんには紗良ちゃんの生きたいように、生きていって欲しいから。
金目鯛　……。（大きな目で鏡を見つめる）
アニサキス　……。（うるんだ目で鏡を睨み付ける）
和馬　でももし気持ちが決まったら教えて。こいつと、待ってるから。
金目鯛　……五ヶ月だよ。……もう、五ヶ月だ。
鏡　わかってるよ！行こう九呉。

九呉　え。‥いいの？（ずっと弄っていた扇子を立たせると「永」の時が買いてある）
鏡　いや、とりあえずそこ行こう。網元の住んでたとこ。
九呉　え。なんで、
鏡　だって首相の正体もわからない国で生きてけないでしょう。
九呉　は？
鏡　別人だとしても絶対なんか関係してるって。
和馬　紗良ちゃん、それ誰。なんの話？
鏡　和馬には関係ない。（九呉に）だからとりあえず行ってみよう。
九呉　でも深川って‥、（手紙を見る）
鏡　歩いて一時間くらいで着く。あ。お茶買ってこう。（手前ドアに走っていく）
九呉　あ、ちょっと待って。（鏡を追って走る）
金目鯛　（グハアと派手に悶え苦しむ）
アニサキス　ああキンメ‥キンメ‥、
和馬　生簀‥生簀‥、（金目鯛を支える）
アニサキス　キンメ…、
和馬　（奥ドアに言う）すいませんここに生簀‥！（金目鯛を伴って奥ドアへ去っていく）
アニサキス　……。

アニサキスが一人取り残される。するとオルゴールの小さな音が聞こえ出す。

子アニサキス（声）　お兄ちゃーん……お兄ちゃーん……

そして小さな子アニサキス、手前ドアから漂いながらやって来る。

子アニサキス　あ、居た。ねえ、兄アニサキスー。兄アニサキスー。
あたしね、ずーっとこうして漂ってるよ。お魚なんかに、寄生しないよ。…で。この広い海を、
もーっともーっと……、あ、あれ？進めない‥、（振り返り）あっ‥金目鯛！　…ああやだ、
食べられちゃう、いやだ…いやだ……、（しかし懸命に泳ぐも、急速で手前ドアに吸い込まれていく）
ああああああああ‥！

オルゴール音が途絶え、照明戻る。少し間。

アニサキス　（かぶりを振ってから）…キンメ。（奥ドアに）キンメー……！（そして奥ドアへ走り去っていく）

Scene 会見　一議事堂（羽二重・母2）

再びのサイレンの音。
サイレンが鳴り始めると同時に、羽二重が書類を脇に抱えて手前ドアからやって来て、
下手側の箱椅子を中央の箱椅子の上に重ねる。
サイレンが終わると照明変わり、羽二重は正面を向いて重ねた箱椅子の上に書類を乗せる。

羽二重　えー只今のガスの発生につきましての会見を、おこないます。ガス発生についての会見を、おこないます。
えー。只今政府はこの原因の究明と今後の対策に全力を注いでおり、必ずや直ちに問題の解決を‥

母2　はいはいはいはい！
羽二重　（客席を見渡し、母2に手を向ける）はい。お母さん。

客席間のスペースに照明。中年女性記者然とした母2がペンとメモを持って。

母2　え―非常に大変な状況ですが朝ごはんはちゃんと食べましたか？
羽二重　はい簡単にですが。えーまた首相の綱元は、
母2　はいはいはいはい！（挙手）
羽二重　（客席を見渡し、母2に手を向ける）はい。お母さん。
母2　好き嫌いなく緑の野菜も食べてますか？
羽二重　あー、
母2　赤い野菜は！
羽二重　食べております。えーまた綱元は、
母2　はいはいはいはい！（挙手）
羽二重　はい母さん。（母2に手を向ける）
母2　半年前の女性とその後の（進展は、）
羽二重　（遮って）ノーコメントです。えー綱元は、
母2　はいはい！（挙手）
羽二重　母さん。
母2　うちにはいつ帰って来ますか？ 年末年始はどうしますか？
羽二重　あー…近い内にご返答ができるかと思います。では、他にご質問なければ会見を終わらせて頂きます。
他に、首相の正体につきましてなど、何かご質問のある方は……。（客席を見渡す）
母2　……。（それには全く興味なしの様子）
羽二重　では会見を終わります。（一礼して手前ドアへ向かう）
母2　あ。こっち向いてください！ こっち向いてください！（デジカメで羽二重を連写しながら舞台上へ）
こっち向いて！ほらもう、こっち！（羽二重の尻をメモ帳で叩く）
羽二重　痛っ…

照明、変わる。

母2　あんた大丈夫なの、体は。
羽二重　ああまあ、何とか。
母2　急にこんな忙しくなっちゃって。普通どうにかなっちゃうよ。
羽二重　そうだけどしょうがないよ。なんかもう……、
母2　あんたほんと、一つのことに集中するといっつもこんな…、

ピーと、か細い笛のような音がする。

羽二重　？
母2　そらごらん。あんた心労で肺に穴が。
羽二重　え？
母2　ほらそこに。（床のどこかを指差す）（※ピー音）
羽二重　えっ…なにどこ、

母2　ああ空いちゃったよもう。漏れちゃってるよ。（※ピー音）
羽二重　どこ。
母2　だめだよ。ちょっと休ませてもらいな。（※ピー音）…あーほら。このままじゃ鹿が寄って来ちゃうよ。
羽二重　鹿が？！（※ピー音）
母2　ああどんどん寄って来るよ。
羽二重　それは困るよ。（※ピー音）
母2　だろ？ だからちょっと休みな。ね？
羽二重　そうしたいんだけど、無理なんだよー…（※ピー音）（手前ドアに去っていく）
母2　なんでだよ。鹿だよ？（手前ドアに去っていく）（※ピー音）（ドアを閉める）

Film 中止

二人退場同時に、ライブニュース映像。夏の議事堂周辺に、鹿が集まってくる。
無人の議事堂の中にも、鹿がたくさん居る様子。

声「えー現在、政府は予定していた議会を全て中止にして、腐敗ガスへの対応に当たっています。
えー。この対応が終わるまでは、予定されていた議会は全て中止されるということです。」

議事堂前の掲示板に「公演中止」的な「議会中止」の張り紙。笑顔の網元首相のポスターに「国政中止」のシール。

OPENINGの国民たちの無念の様子。
国民　もうほんとに楽しみにしてたんですけどー。なんでー。
国民　残念すぎるー。
国民　早く始まって欲しいです。待ってますから。
国民　網元首相ー！
OPENINGの国民たちの不満の様子。
国民　ちょっと中止ってどういうことですか、何とかならないんですか。
国民　これからどうなっちゃうんですか。
国民　早くどうにかしてください。
国民　網元首相ー！

議事堂の遠景。
声「えー只今、汚染地域である環状七号線の内側全域におきまして、裏方スタッフたちが工事を開始。突貫作業で
対応に当たっているということです。只今、環状七号線内の全地域で、裏方スタッフが突貫工事中とのことです。
それが終わり次第、網元政権による花咲き乱れる幸せな国政が、ようやく幕を開けます。」（ポスター）

Scene 修繕中 1　―議事堂（羽二重・裏方5・裏方6・穴・公安1）

鉄筋や木材のぶつかり合うような音。金槌の音。機械音。
羽二重が小さな板切れとトンカチを持って手前ドアからやって来て、床の穴を探し始める。
続いて裏方5と裏方6、奥ドアからやって来る。
裏方5はトンカチ、裏方6は箒とチリトリを持ち、衣装は前の裏方と同じく議事堂Tシャツ。

裏方5　オッケーオッケー。この辺はあと修繕と掃除だけねー。
裏方6　あれ。羽二重さん何やってんですか。
裏方5　やめてくださいよもう。そういうのは俺たちに任せて、
羽二重　いやごめんなさい。ちょっと穴が‥、
裏方5　え？
羽二重　いや、僕の…肺に…？
裏方6　ああ。（床のどこかに素早くしゃがみ）これですね。やっときますよ。
羽二重　え‥、
裏方5　あああとあれだ。あっちの方にも。
裏方6　あああのデッカい穴ね。あれもでしょ？羽二重さん。
羽二重　え……、
裏方5　ほら胃袋の。こーんなデッカいの。
羽二重　僕の、胃‥？
裏方6　あれも、直しとくんで。
羽二重　ああ‥。……ありがとうございます、
裏方5　だからちょっと、今は休んでて。ね。
裏方6　大変ですもん。今は色々と。ね。心労が。
羽二重　ああ、まあ‥はい。すみませんもう…こんな……。
裏方5　そんな、謝んないでくださいよ。
羽二重　この分のギャラもちゃんとあの、皆さんにお支払いしますから‥するつもりですから‥、
裏方6　（笑って）またもう。今はほら、そういうのは。ね。後で考えましょう。
裏方5　（笑って）ええ。とにかく今は再開に向けて集中していきましょう。ね。こっちの事は全部、俺たちに任せてくれたらいいですから。
羽二重　ほんとにもう…。いろいろとすみません‥！ありがとうございます！（思わず裏方5に抱きつく）

するとガシャン…！と、ガラスの割れる音がして、裏方5、割れ、飛び散り、崩れ落ちる。

羽二重　えっ‥‥！
裏方6　ああごめんなさい割れちゃった。離れて。破片で手を切りますから。ほら。こっちで片しておきますから。
羽二重　（箒で裏方5を履く。履かれてバタバタ動く裏方5。シャリンシャリンとガラスの音）
裏方6　（その音と様子に）え……ガラス？　ガラス細工…？
羽二重　（鼻歌を歌いつつ、裏方5を丁寧に履き続ける。シャリンシャリンとガラスの音）
裏方6　そんな……。（小さく裏方6を突いてみる。一段と繊細なガラスの音がする）…！
羽二重　大丈夫ですか。細かい破片ひとつでも傷つきますから、気をつけてくださいねー。あ、ほら。ここにもカケラが…（羽二重の服からほんの小さなカケラを丁寧にとる）
羽二重　ああ‥繊細……、
裏方6　この服は脱いで外で払った方がいいですね。とりあえずガムテで取っときますから。
羽二重　え、あ、あの。…もしかして他の皆さんも……。
裏方6　いえ確か、陶器や陶磁器ですねー。（ガムテで羽二重をペタペタしつつ）
羽二重　やめさせてください！やめてください！こんな作業、皆さん‥‥、
裏方6　動かないで。
羽二重　今すぐやめましょう、ね？危険すぎる。もういいですから！（と、思わず裏方6の肩を掴む）

するとバリン…!と音がして、裏方6の上半身が割れて、崩れる。

羽二重　ああほらっ…! ごめんなさい! あああああ…!
裏方6　(笑って)ああもう、危ない危ない、離れて離れて。(崩れた体をなんとか起こす)
羽二重　いやもういいです、いいんです…! ほんとごめんなさい、あの、やめましょう、いいですもう……、
裏方6　(崩れた体で)もうそんな。気にしないでくださいって。今はほら、一丸となって頑張っていかないと。
羽二重　ああああ、ごめんなさい、ほんとうにごめんなさい…、
裏方6　(崩れた体で)ほらもう、しっかり。
羽二重　ああああ、僕のせいです……、全部僕の…、
裏方6　あ。(崩れた体のままガシャリガシャリと下手の方に歩き)あれも直しときますから。
羽二重　…え?
裏方6　ほら。(奥ドアを開け、その奥を指す)そこの穴。ぽっかり。
羽二重　(指された方を見る)
裏方6　また空いちゃいましたでしょう。
羽二重　(見たまま)ああ、心に……。
裏方6　わあーおっきいなあー。板と補修材をちょっと、補充しなきゃいけないかなあ。(崩れた体のまま裏方5を立ち上がらせる)
羽二重　ああいや、もういいですから、
裏方6　離れて! 危ないですから!

崩れた体の裏方6、壊れた体の裏方5を塵取りに乗せ、ガシャリガシャリと奥ドアへ。
その間に奥ドアから真っ黒い穴、こっそりと逃げ出て来る。

羽二重　ああもう…、
裏方6　その服、ちゃんと脱いで払っておいてくださいよー。
羽二重　あ、はい…、
裏方6　手でこうサーッととか、やらないようにね……(奥ドアに去っていく)
穴　(羽二重の背後に隠れ、しがみ付く)
羽二重　えっ? あっちょっ、何ですか。
穴　しっ…!
羽二重　離してください。
穴　お願いかくまって…じゃないと…、
羽二重　え?
穴　塞がれちゃう…塞がれちゃうよ。
羽二重　は…?
穴　穴だよあんたの! 心の穴だよ!
羽二重　はい?
穴　せっかく空いたのに、せっかく空いたのにさ……。
羽二重　いやあ…、
穴　いいの? 塞いじゃって。
羽二重　ああうん。
穴　いいの? ……ほんとうにいいの?
羽二重　……あー。

そこに羽二重と全く同じスーツにネクタイ、同じ髪型と眼鏡の、公安1。
羽二重と全く同じ板とトンカチを持って、手前ドアからやって来る。

公安1　穴…穴…穴はどこかなー…。（先ほどの羽二重と同じように床の穴を探す）穴ー…穴ー…。
羽二重　あ、あの、どなたですか。
公安1　あ。気にしないでください。あなたです。
羽二重　は？
公安1　あなたですから。
羽二重　いや…、
公安1　穴はどこだ。どこにあるんだ。（穴を探す）
穴　（公安1から逃げる）
公安1　穴ー…。
羽二重　（その様子をしばし眺める。そして思い出す）……あ。あなたあれですよね。さっきこの議事堂に、鹿の格好で侵入しましたよね？
公安1　え？
穴　（え？）
羽二重　ほら鹿の格好で。鹿に混じって。
公安1　あー、はい。
羽二重　監視カメラで見てました。
公安1　でも鹿は騙せたので。
羽二重　え？
公安1　鹿の目を欺いたんです。
羽二重　はあ。
公安1　だから今はあなたの目を。
羽二重　は？
公安1　今はあなたの目を欺いてるんです。
羽二重　僕の目を？
公安1　はい。鹿は私を鹿だと思いましたので。
羽二重　…いや。僕はあなたを僕だとは思いませんよ。それに、もし仮に思ったとしても警戒します。
公安1　（笑う）
羽二重　何なんですか。
公安1　大丈夫です。そのうち私の方があなたはいったい何なんだろうと思い始めますから。
羽二重　…は？
公安1　だから私の方があなたを警戒しだします。…え？　どういうことですか？
羽二重　え…？
公安1　いやもうやめてくださいよ。あなたが私であるはずないんですから。
羽二重　ああはい。
公安1　……どうも怪しいな。あなた、公安か何かなんじゃないですか…？
羽二重　あ。あなた公安の方なんですか。
公安1　えっ？　……。

そして公安1、羽二重を見たままゆっくり後ずさって、そのまま手前ドアに入っていく。

ドアが閉まる。少しの間。

穴　逃げよう。
羽二重　え？
穴　とりあえずここから逃げよう。
羽二重　ああ……うん、はい。
穴　行くよ！

穴と羽二重、奥ドアに逃げ去っていく。

Film 工事中

永田町・日比谷・有楽町の街中が、足場や工事幕に覆われている。工事音とあちこちでガラスや陶器の割れる音が響く。

ガラスや陶器の破片が降るなか、羽二重と穴（本物）が逃げている。
そしてシャッターの閉まったビルの前へ。シャッターに穴（本物）がへばりつく。その穴に身を隠す羽二重。
すると集団のシュプレヒコールが聞こえて来る。幸せそうではない本気の声。羽二重、声の方を見る。
「我々はー、幸せじゃーない！」「幸せじゃあない幸せじゃあない！」

ライブニュース映像。「SNS投稿動画より」の文字。とんでもない人数の集団が道を埋め尽くしている。
声「只今修復工事中ですが、なかなか幸せが齎されない状況に、人々の不満が爆発している模様です」
（集団は道をどんどん進んで、隅田川大橋か永代橋を渡る。そして深川の街の風景へ。）

Scene 修繕中 2　―深川（元加害者・動画）

シュプレヒコールの続くまま、負傷した足を引き摺って、元加害者、手前ドアからやって来る。

元加害者　……。（しばしシュプレヒコールを聞く）

そして水洗トイレの流れる音がして、手前ドアから動画の女がやって来る。いたって普通の女性。
ハンカチを持ち「幸せじゃない」と書かれたプラカードを脇に抱えている。

動画の女　あ、やだなに？ どうしました…？
元加害者　あ、あれの参加者の方ですか？ 俺もちょっと混ぜてもらえませんか。
動画の女　えっ…。
元加害者　ほら俺、幸せじゃないんで…だから一緒に、（歩き出そうとする）
動画の女　あ、いえ。あれは私の動画なんで。
元加害者　…ん？
動画の女　ごめんなさい。あれは私の動画ですから。
元加害者　…あ、端っこに参加させてもらうだけでいいんで…、
動画の女　いえ違うんです。…えっと一秒が二十四コマだから、一秒で二十四人の私なんです。
元加害者　はい？
動画の女　一秒につき二十四人の私がほら。（声の方を指す）

声　「我々はー、幸せじゃーない！」「幸せじゃあない幸せじゃあない！」
「我々はー、幸せじゃーない！」「幸せじゃあない幸せじゃあない！」（以降も聞こえ続ける）
元加害者　あー…一秒で二十四人だと…、
動画の女　一分で千四百四十人、五分で七千二百人、十分で一万四千四百人になりますね。
元加害者　ああ…すごいね…。
動画の女　はい。私の不幸を全世界に、知らしめるんですよ。
元加害者　はあ……、
動画の女　なので。あなたの不幸はあなた自身で、何とかしてください。（プラカードを持って手前ドアに向かう）
元加害者　あ。また合流するんですか、（着いて行こうとする）
動画の女　いえ私のコマは、もう終わったんで……。
元加害者　え、じゃあ…、
動画の女　せめて、拡散してください。
元加害者　はあ……。
動画の女　（短い間のあと）さようなら。（手前ドアに去っていく）
元加害者　待って…！（追って手前ドアに去っていく）

シュプレヒコールは去っていき、再び工事の音が聞こえてくる。時折ガラスや陶器の割れる音。

Scene 探索 1　―深川（鏡・九呉・公安2・公安3）

客席の後から、鏡と九呉がやって来る。

鏡　あー美味しかったねー。一回食べてみたかったんだー。（音に気付き）…ん？ なんか割れてる？
九呉　あれが深川めしか。
鏡　あんまりだった？
九呉　米とアサリ。ずっと食ってきた。
鏡　あ。…平安時代から？
九呉　（頷く）
鏡　なんかごめん。
九呉　また暑くなったな。
鏡　ああうん。（上を見上げる）…あれ。太陽が二つある…？
九呉　ああ誰かが射落とすだろう。
鏡　え？
九呉　太陽が複数あれば、やがて誰かが一つを選び他を射落とす。
鏡　あ、それってなんかの神話かなんか、
九呉　自分でググれ。ついでに早くマップを見ろ。とっととアパートを見つけて、どこかクーラーの効いた所に入ろう。
鏡　あ、うん…（スマホを出そうとポケットか鞄を探る）
公安2　どうもありがとうございましたー。（手前ドアが開く）

鏡と同じ系統で、過剰に可愛い服装と髪型をした公安2と、
九呉と同じ系統で、過剰にセクシーな服装の公安3、手前ドアからやって来る。
鏡と九呉同様、鞄と袋を下げている。

公安3　やっぱりもう無いかー。橘荘。
公安2　そうだわね。だって六十年以上前だもの。どうする？九呉ー。
公安3　そうだなあ。どうしようか？鏡ちゃーん。
公安ら　（そうして互いの名を呼びながら、互いに過剰に屈強さとセクシーさを見せるなど）
鏡　：あれ。
公安3　あっ！（鏡と九呉に驚き、目を逸らす）
公安2　気にしないでください。私はあなたよ。
鏡　え？
公安3　あなた方ですから。
九呉　なんで私たちのふりを？

そこで通信音声が大音量で聞こえてくる。
公安2と3は装着しているイヤホンに手を当て、音声に耳を傾ける。

イヤホン　「現在、鏡と九呉が接近中。公安業務は注意して当たるように。」（通信雑音）
「鏡と九呉が接近中。公安業務は誰にも決して知られないように。極秘任務です」（通信雑音続く）
鏡　いや、それ音量が大きいです！　全部聞こえてます！
公安3　え！なに？　聞こえない！
イヤホン　「尚、喫茶ビック店長の戸柿正司の証言よると、鏡紗良は爆弾魔でテロリスト。国内の混乱を狙ってテロ行為を画策しているとの事」（通信雑音続く）
鏡　えっ：、
イヤホン　「鏡紗良は非常に危険なテロリストであり、国内の破壊工作を画策する、悪党です」（途切れる）
鏡　……。
公安ら　……。
鏡　違います、それ嘘ですから。マスターが嘘を、（公安3に近づく）
公安3　（警戒態勢）
九呉　（警戒態勢）
鏡　ちょっと九呉、（公安3に）いえ違うんですよ、マスターが嘘を、ねえ聞いて、ねえ！
公安2　……だって私、こんな国、なくなってしまえばいいと思うから。
鏡　え？
公安2　だってそうでしょ？こんな混乱した国。お母さんはもう居ないし和馬は頼りない。こんな国で子供なんかとても産めないのよ。
鏡　（その通りと思う）
公安2　木っ端微塵になってしまえばいいのよ！
鏡　いやあのそこまでは：、
公安3　そうだね。それじゃあどうにかしてあの首相の正体を突き止めよう。そして国家の転覆を謀ろう！
九呉　いやそれはちょっと：、
鏡　やめてください！私そんな、ねえ、
公安2　じゃあ綱元から来た手紙のコピー、出して。
公安3　うんわかった。（肩か腰に下げた袋をまさぐる）
九呉　えっ……、
公安3　はい、これ。（手紙を一通、公安2に渡す）

公安2　ありがとう。（その手紙を開く）
九呉　いつの間に‥‥。

前と同じ郷愁を誘う音楽で映像イン。鏡と九呉、その手紙を覗き込む。手紙の文字と綱元の声が流れる。
当時の若き綱元の映像と共に。
綱元「元気ですか。俺は劇団「牛・カルビ座」に入りました。
牛肩座長はいい人です。何でも知ってる。面白い奴がたくさん居ます。演技も知識もみんな凄い。
俺も負けないように勉強している。みんなが色々と教えてくれるんだよ。
でも、島のみんなが恋しくもなってきた。
九呉はそっちでどうしていますか。お前はきっといつものように、」

公安2　これはどうでもいいわね。（手紙を丸めて投げ捨てる。映像オフ）
九呉　あ。
公安3　じゃこっちはどうかな。（もう一通手紙を差し出す）
九呉　（捨てられた手紙を大事そうに拾う）
公安2　（手紙を受け取って広げる）

前と同じ郷愁を誘う音楽で映像イン。鏡と九呉、その手紙を覗き込む。手紙の文字と綱元の声が流れる。
当時の若き綱元の映像と共に。
綱元「元気ですか。俺はカルビ座で頑張っています。
なかなか役には決まらず、今は大道具をやっています。次の公演では舞台装置の設計もやる。
実を言うと、劇団だけでは食べていけないので、近くの町工場で働いています。
俺にはそっちの才能があるようだ。
でも、今は仕事の合間に台本を書いてるんだよ。もちろん九呉の役もあって、」

公安2　町工場ですって。（手紙を丸めて投げ捨てる。映像オフ）
九呉　あ。
公安3　この近くにまだあるかもしれない。
公安2　そこに行ってみましょう。何か手がかりがあるかもしれないわ。
公安3　よっしゃ。
九呉　やめろ‥、（公安らに斧で殴りかかる）
公安3　（それを避けて九呉の首を思い切り絞める）
鏡　あ、なに？やめて！　九呉、九呉‥‥！
公安3　（息の根を止める。そして力を緩める）
九呉　（くずおれる）
鏡　九呉！
公安2　（公安3に）さあ行くわよ九呉。
公安3　（公安2に）ええ鏡ちゃん。
九呉　ダメだ畜生。（むくりと起き上がる）こんなんじゃ死ねない。もう一回！（手を叩く）
公安2　（慄きながら九呉に銃を発砲）
鏡　（悲鳴）
九呉　（打たれて悶絶するも）‥‥‥。いやダメだな。もう一回。（手を叩く）
公安2　‥なんだよ、（奥ドアに逃げていく）

公安3　…、（同じく逃げていく）
九呉　（舌打ちしてから）町工場だ。ググれ。
鏡　え…？
九呉　早くしろ！
鏡　あ、はい、（スマホを取り出す）

照明が徐々に暗くなっていく。

九呉　ああもう陽が暮れていく。
鏡　（スマホを見て）あー、伊勢屋和菓子工場、門洋菓子工場、佃屋食品工場…、
九呉　違うな。
鏡　あとは結構なくなっちゃってるみたいだ。あともっと小さいとこ…あっこれ工場かな…ツナモトゼンマイ。
九呉　えっ…、
鏡　あーこれどこ？路地が入り組んでて、
九呉　そこのアパマンに聞いてみよう。（手前ドアを指す）
鏡　あ、そこアパマンなんだ。
九呉　すいませーん。あ。ごめんなさい。違うんですけどー。ちょっとお聞きしたいんですよー。（手前ドアに去っていく）
鏡　……あれ。月が二つ……。

Scene 探索 2

一町工場（鏡・九呉・一文字・橋掛・元加害者・広告の女・大鼓・大迫）

照明が変わって、作業服姿の59才、頭のすっかり禿げ上がった男、奥ドアから九呉と共にやって来る。男は一文字響平だが、互いにまだ気づかず。

一文字　こちらがその工場です。今はもう機械類はほとんどありませんけど。
九呉　なるほどですー。そうなんですかー。
一文字　あ、どうぞ座ってください。何もありませんが…（奥ドアに）おいお茶を。
橋掛（声）はいはい。
鏡　……。（九呉、随分こなれたなと思っている）
一文字　で。なんでしたっけ。ここがなんか？
鏡　…あ、はい。この工場って今の首相と何か関係があるんですか、
一文字　え？首相？
鏡　ほら今の総理大臣の、
一文字　ああごめんなさい、ここんとこもう全然ニュース見てなくて。色々とバタバタしてましてね。
九呉　…と言いますと。
一文字　ああいやほら、ここもあれですよ。今年いっぱいで閉めるつもりで。二階が自宅なんで色々とね。
九呉　ああ。
一文字　そんな時に、一週間前だったかな。ここを買い取りたいって話が来て。
鏡　買い取り？
一文字　ええよくあるやつですよ。ここを改築して大手の製造会社が…、なんつったけかな。なんとかエンジニアリングとかっていう…、

鏡　はあ。
一文字　なんかそこの製造の一部をここで行いたいとかで、全面工事するんですよ。
橋掛　もう取り潰しちゃうつもりだったのに余計に面倒なことになっちゃった。（お茶をお盆で持って来る）

橋掛千茶都も59才。作業服の上着を着ている。奥ドアから。

一文字　だからここんとこは、その手続きやら何やらでもう、
橋掛　ほんとに大変。なのに工事予定日になっても来ないのよ。失礼しちゃうでしょ？（お盆を箱椅子に置く）
一文字　本社に連絡しても日本語通じないしね。（笑う）
鏡　はあ。
九呉　（お茶を取って）であの。ここの社長さんのお名前が、ツナモトさんで。
橋掛　え？　ああツナモトよ。でも社長はもう亡くなったから。去年の暮れに。
九呉　……、
橋掛　だからもう閉めちゃおうってね。その後すぐに決めて。
鏡　ああああの、失礼ですが…。
一文字　ああ。（立ち上がって）綱元まことの息子役の、一文字響平です。（握手）
橋掛　一文字の妻役の、端掛千茶都（はしがけちさと）です。（おじぎ）
鏡　えっ……
一文字　父さんはここを残したがってたけどね、（お茶を取って）
橋掛　でも注文もほとんど無くなってたのよ。（お盆を取って）
一文字　だから売却をね、
橋掛　ええ売却金を投資でもした方が。ほら今はニイサンだかネエサンってのが、
鏡　ちょっと待ってください。今なんて、
橋掛　だからほら今年一月からスタートした少額投資非課税制度でイギリスのＩＳＡをモデルにした、何だっけ？
鏡　いえその前、
橋掛　え？
九呉　響平か…、
一文字　はい？
九呉　響平なのか…、
一文字　ああ、まあ。
九呉　奈落村の。大入県の。
一文字　（笑って）え？　なんで…、
橋掛　ああほらあの県、消滅しちゃったじゃない？　だからこっちへ。ね。あなた十八才の時だったかな。
一文字　ああうん。そうそう。
鏡　あ、じゃあそれから、

大勢のシュプレヒコールが聞こえてくる。

声　「俺は、すごい、不幸だぞ」「俺は不幸だ、俺は不幸だ！」（破壊音）
「俺は、誰より、不幸だぞ」「俺は不幸だ、俺は不幸だ！」（破壊音）
橋掛　なに？

元加害者が手前ドアから、段ボールプラカードを持って走り込んでくる。

元加害者　俺は不幸だー！
一文字　わあ、なんだあんた‥、
元加害者　俺は不幸なんだよー！すごい不幸なんだー！
鏡　あ。あなた、喫茶ビックのお客さん‥、
元加害者　あ。いや違います。動画です。動画の一コマ‥。
広告の女　膝がビキッ。（動画広告の女。奥ドアからいつの間にかやって来ていた）
元加害者以外？　そんなあなたにコエンザイムＱ10。これを飲めばあなたのお膝もたちまち（と言いながら去っていく）
元加害者　……あああ。終わっちゃったよ、俺の一コマ…。俺の一コマ…。（そして前シーン同様に無表情で淡々と自傷行為を始める）終わっちゃった終わっちゃった終わっちゃった終わっちゃった（繰り返し）
鏡　ああのそれ多分離脱症状、離脱症状ですから！
元加害者　……。
鏡　ね？　ただの離脱症状です。全部まぼろしですから。
元加害者　違うんだよ、違うんだ…。
鏡　え‥？
元加害者　だから拡散して。俺のこの…！（と、腹に巻いた時限爆弾を見せる。そしてそのボタンを押す）
鏡　あ。
九呉　（素早く元加害者を捉えて、手前ドアに走る）
鏡　あっ‥、

カウントダウンの音が遠ざかり、ドアの向こうで爆音。

鏡　九呉ーーーー…！
十文字　え。国麿？あいつ、九呉国麿‥！
橋掛　え。なに？カレー‥？

爆音、静まっていく。静まると、九呉が戻ってくる。

鏡　ああ良かった……。
九呉　（斧を一文字に向け）お前が十八の時にここに来て。そのとき綱元は。
一文字　え、ああ…確かその年にこの工場を開いたから。四十八才で、
九呉　劇団はやめたのか。
一文字　ああいや…大分前からもう、大道具しかやってなかったみたいで、
九呉　（斧を橋掛に向け）あんたは平台町の、
橋掛　ああうん‥、そう。
九呉　いつ島を出た。
橋掛　ああごめんなさい。でもしょうがないでしょ？あんな島。だから、子供の頃に両親が私を連れてこっちへ。
一文字　新橋で。新橋でたまったま会ったんだよ。仕事終わりに飲んでたら。な？
橋掛　そうそう。驚いた。
一文字　もちろん最初は分からなくてね。
橋掛　話してみてびっくり。

一文字　なー。
鏡　それでご結婚を。
一文字　いやキャスティングを。
鏡　……？
橋掛　ああ愛はないのよ。ぜんぜん。
一文字　そうそうないない。あるわけない。な。（橋掛に顔を寄せるなど）
橋掛　最初から今もこの先も、微塵もないわよ。ね。（一文字の膝に手を置くなど）
鏡　いやでも：、
一文字　ほら役だから。
橋掛　ぜんぶ演技よ。

手前ドアから大鼓千鳥30才、やって来る。

大鼓　お父さんお母さん、大丈夫だった？
一文字　ん？
大鼓　今なんか凄い爆音がして、慌てて来たら男がこんな。（スマホを見せ）あ、「いいね」がもう一万件。
一文字　おお。

手前ドアから、大迫典打55才、ハイハイでやって来る。いかにも赤子の帽子付きロンパース。

大迫　まんま、まんま、
大鼓　ああ起きちゃったの。びっくりしたね。よしよし：、
橋掛　あ。私たちの娘役と孫役を務めてくださっている、大鼓千鳥（おおつづみちどり）さんと、大迫典打（おおぜりのりうち）さんです。
大鼓　よろしくお願いします。（おじぎ）
大迫　共演が楽しみです。（立ち上がって鏡に握手）
鏡　ああ：。
大迫　（ウォーミングアップ）
大鼓　ねえ。二人とも大丈夫だったの？ 怪我とかしてない？ お父さんはちゃんと、お薬飲んでるの？
一文字　（鏡に）あ。心配する演技です。
橋掛　（鏡に）ええ。血の繋がりも愛情も、これっぽちもないんで。
大鼓　（鏡に笑顔）
大迫　（赤子泣き）
一文字　おおおお：どうしたどうした。
大迫　（赤子笑いで九呉の方へ歩いていく）
橋掛　あらあらあら。ノリちゃんおじちゃんのことが好きなの？
一文字　ああチューだって。ほらチュー。ね。抱っこしてあげてよ。
九呉　あー……。（出来ない。少し試してみるも、やはり出来ない）
九呉と鏡以外　……。（舌打ちするような反応）
大迫　（次に赤子走りで鏡の元に行き、膝に顔を埋める）
鏡　…！
大鼓　あらあらごめんなさい。
橋掛　お姉さんはどうかなー。

鏡　……。（皆に見つめられ、大迫を撫でて作り笑いを見せる）ははははは。
橋掛　あらーよかったねーノリちゃん。嬉しいねー。
大鼓　ほらもうこっち来なさい。（鏡に）すいませんご迷惑だったでしょう？
鏡以外　……。（鏡をみつめる）
鏡　あー……。いえいえ。あー：とっても可愛い、お子さんで：、
大迫　（赤子の歓喜）
橋掛　まあありがとう。ノリちゃん嬉しいねえ。
大迫　（唐突にりきみ顔と声）
大鼓と大迫以外（強烈な匂いに対するリアクション）
大鼓　あらやだごめんなさい。うんちだわ。
大迫　（赤子走りで手前ドアに走る）
大鼓　ああノリちゃん待って、おむつ変えよう。ね、おむつ。（追って去る）

物凄い異臭を残して大鼓と大迫が手前ドアに去り、しばし、それぞれに咽せてから。

橋掛　あなたももうすぐお母さん役ね。（まだ鼻を摘んだまま）
鏡　え、（まだ鼻を摘んだまま）
橋掛け　妻役もお母さん役も悪くないものよ。（まだ鼻を摘んだまま）
一文字　きっと立派に務め上げられますよ。（まだ鼻を摘んだまま九呉に）お前はまだまだだけどな。
九呉　……。
一文字　（やっと鼻から手を離せて息が整う）…父さんはやっぱり凄かったよ。完っ璧な、父親役だった。
鏡・九呉　（一文字を見る）
一文字　反抗的だった俺ともしっかりと向き合ってくれてね。完っ璧な父親役と完っ璧な社長役を、立派に務め上げたよ。
橋掛　あんな名優を放っておくなんてね。
一文字　ああ。わかってないんだよ、こっちの人たちは。
橋掛　ほんと。見る目がないにもほどがる。
一文字　ああ。
鏡　……。

間。

橋掛　ほら。技術者役だって半端なかったのよ？（舞台上の歯車を指し）この工場のゼンマイと歯車の性能の良さったら。
一文字　ああ、だからちょっともったいなくてね。
橋掛　そう、だからよ。ここの工場と製造技術を買い取ってくれるっていうから面倒な手続きしたってのに、

手前ドアを叩く音。奥ドアから黒スーツ姿の公安４（男）と公安５（女）、やって来る。
髪型をびしっと決めており、公安５はスーツケースを持っている。イヤホン有り。

公安4　失礼します。警視庁公安部の渡辺と申します。
公安5　矢口と申します。
鏡　（あっ…）
公安4　この工場で工事の届出が出ていますが。（書類を見て）四日前からの工程で。
公安5　工事の方はまだ。
一文字　ええそうなんですが…、
公安4　その件について調査を行わせていただきます。
公安5　令状です。（書類を一文字に差し出す）
鏡・九呉　（こっそりとこの場から立ち去ろうとしている）
公安4　ああ。先程は他の者が大変失礼しました。あなた方もご同席ください。
鏡　え…、
公安5　喫茶ビック店長の戸柿正司が、ヤザワの歌で良心を取り戻しました。
九呉　え…、
公安5　アンコールの曲で。武道館の。
九呉　ああ…！
公安4　なのであなたのテロ行為については、疑惑が晴れました。
鏡　ああ…。
公安5　（一文字に）では少しお話を伺わせて頂いてよろしいでしょうか。
一文字　ああはい。
橋掛　なんなの。
公安4　羽二重欄太さん。ご存じですよね。
一文字　ああはい。
鏡　あ。政府の人ですよね。
公安4　いいえ違います。
鏡　え？
公安5　羽二重さんは、こちらを買い取った、アルファジェネラルエンジニアリング東京支部の方で。
一文字　ああえええそうです。
公安4　その羽二重さんが、ここの契約を。
一文字　ああはい。
公安5　彼はそれ以降、こちらへは。
橋掛　いらっしゃってません。
九呉　なんなんだそれは。彼はいったい、
公安5　はい。羽二重は政府の人間ではなく、実はここを買収した企業の社員なんです。
九呉　……え。ちょっと待て。それはいったいどういうことだ？

手前ドアを叩く音。手前ドアから、先ほどの公安2と3、やって来る。
公安4、5の真似をした服装と演技。イヤホン有り。

公安2　失礼します。警視庁公安部の渡辺と申します。
公安3　矢口と申します。
公安2　この工場で工事の届出が出ていますが。（書類を見て）四日前からの工程で…（公安2と3に気づき驚く）
公安3　工事の方はまだ…あっ…！（公安2と3に気づき驚く）

少しの間。

公安４　……え。ちょっと待て。これはいったいどういうことだ？
九呉　え、知りませんよ、
橋掛　あの、羽二重さんが何か…、
公安２・４　（同時に喋り出す）ええその彼が先ほどから、
公安４　あ。すみません、
公安２　いえこちらこそ、
公安４　どうぞお先に、
公安２　いえいえそんな、
鏡　どっちでもいいんで教えてください。その羽二重さんがどうしたんですか。
公安２・４　（同時に）ええですから、
公安４　あっお先どうぞ、ねえ、
公安２　いやいやそんな、まいったな、
公安４　（一文字に）すみません、どっちが俺でしょうか。
一文字　知りませんよ、
公安４　困ったな、どうしましょう、（公安らでわちゃわちゃと喋り出す）
橋掛　あ、あの、なんかほら、そのイヤホンで聞いてみたらどうですか。
公安２　え？
橋掛　本部かなんかと繋がってるんでしょう？
公安２　ああこれはｍｐ３プレイヤーです。（一文字に）ねえどっちだと思いますか。
一文字　知りませんって、
公安４　もう決めちゃってください、
公安２　お好きなほうで構いませんから、
橋掛　ほらあなた早く決めちゃって、
九呉　響平！
一文字　え？俺が決めるの？え？　（鏡以外の全員でわちゃわちゃと喋り出す）
鏡　ああもう！教えてください！羽二重さんって何なんですか。彼が何を、
公安２・４　（同時に）だから彼が、
公安２　ちょっ、（笑）
公安４　もうっ、（笑）
鏡以外　（更にわちゃわちゃとしだす）
公安５　（もう埒が明かないと思い、ポケットからプレイヤーを出して、ボタンを押す）

リズミカルな音楽イン。公安ら、リズムに乗り始める。他の者は箱椅子とお茶を片付け始める。
そして激しく踊り出す公安たち。やがて全員で踊り始める。しばしダンス。
ダンスが盛り上がると、鏡、マイクを出して熱唱。

鏡　（歌）　なんなの一体　今の政府　なんなの一体　あの首相
全員（歌）　どうしろっての　こんな国で　どうしろっての　この先こんなで
鏡　（歌）　こんなでほんとに　幸せに？
全員（歌）　あああ母さん　あああ母さん　あああ母さん　あああ母さん

鏡　（歌）　こんなでほんとに　幸せに？

そこで唐突に一際大きな工事音が響く。音楽途切れる。鏡、驚く。
他の者は去り、重機の停止していく音。鏡、慌てて他の者を追って去っていく。

Film 工事完了

重機の音と共に街の工事幕が緞帳のように上がっていく。すると紅葉に囲まれた国会議事堂が現れる。ススキと名月。しかしその空は写真や映像ではなく、人の手で描かれた書き割り。美しい音楽。

声「只今、全ての工事が完了しました。環状七号線内の腐敗汚染の除去と、全ての腐敗箇所の修繕が完了しました。ご覧ください。美しく澄んだ空に名月が浮かんでいます。全ての問題が解決し、待ち望んだ平穏が訪れた様子の、見事な書き割りです。」
（空の書き割りが動き出す。）

声「もちろん時間の移ろいに合わせて、朝焼け日盛り夕焼けと書き割りは転換。」
（書き割り、朝焼け日盛り夕焼け。）

声「また曇天雨天、嵐に台風など、季節によってもドラマチックに変化します。」
（書き割り、次々とあらゆる天候、風景に。）

声「これでようやく、待ち望んだ綱元政権による国政が、開始されます。」

拍手と大歓声。カメラがパンすると議事堂に向かって「OPENING」「Film 中止」の国民たちが歓喜している様子。しかし更にカメラが回ると、それらの人々も全て、書き割りに変わっている。

声「歓喜する国民たちの書き割り。その上空一面を覆う書き割り。
その下に立ち並ぶ、各省庁ビルにオフィスビル、商業ビルやマンションも、全てが書き割りに変わりました。」
（あらゆるビルや店舗の書き割りが、降りて来たり、上がって行ったり、移動したりする。）

声「もちろん封鎖されていた道路、運休していた交通機関も、通常通りに戻った書き割りに。」
（道路の書き割りの前を、車の書き割りを持った人が通り、交差していく。
駅の書き割りの前を、電車の書き割りを持った乗客が横切っていく。）

声「そうして活気を取り戻した街を、楽しげな恋人同士や家族連れ、意気揚々と働く人々、賑わう観光客たちなどの、様々な書き割りが埋め尽くしています。」
（様々な人々の書き割りが移動していく。そこを楽しげに一人歩く、生身の女性。）

声「この街や公園、道路などの地面の全ては、パンチシートかリノリウム。
そこには、あなたの立ち位置を示すバミリテープが、貼られています。」
（地面のバッテン印のテープの上に楽しげに立つ、先ほどの生身の女性。）

声「さあこの幸せに満ちた街で、幸せな人生を送りましょう。初国会は、本日開幕。
綱元政権、第一幕。二千二十四年十一月の、いよいよ本日、開幕です。」
（開幕の告知の貼られた、議事堂の門）

声「尚、只今、首相秘書官、羽二重欄太の行方が分からなくなっています。」
（羽二重の写真。そしてビックカメラの建物。８階。「喫茶ビック」の看板。）

Scene 幸せ3 ―ビル8階（鏡・九呉・羽二重・穴）

映像は再び議事堂の遠景になり、映像のまま、鏡、奥ドアから木枠を掲げてやって来る。
「Scene 幸せ1」の冒頭の戸柿と同じように、映像の前に掲げて議事堂の遠景を眺める。
そこにカランカランとドアベルが鳴り、九呉、手前ドアからやって来る。映像オフ。

九呉　おい。そこらの建物や街路樹も全部書き割りだし、コンビニも書き割りだったぞ。
鏡　ああそう。（木枠を下ろす）
九呉　だからほら、ウーバーかウォルトかメニューか出前館。イタリアンがいいんだけどどっかない？
鏡　あ、うん。（随分こなれたなと改めて思いつつ）
九呉　早く。
鏡　わかったよ。（スマホを出し）：あ、そうだごめん。その前にちょっと、和馬に電話する。
九呉　かずま？
鏡　ご両親に会うよ。首相のこととか、もうどうでもいいから。
九呉　え？
鏡　だって結局なんにも分かんなかったじゃん。そんな事よりとりあえず、自分の立ち位置はっきりさせとかないと。
九呉　は？
鏡　だからやるよ、和馬の妻役。どうせ母親役はやるんだし。綱元だってそうしてきたじゃん。それしかないんだよ。
九呉　ああ…。
鏡　あと金目鯛も腐るしね。（と、木枠を持って、舞台裏ドアへ）
九呉　あ。ねえここ喫茶店だったんでしょ？　とりあえず何か食うもの、あったらよろしく。
鏡　（舞台裏ドアへ去る）
九呉　（奥ドアへ向かいながら）なんか食うものー：（鏡に聞こえるように）米とアサリじゃないものー：

九呉が奥ドアを開けると、ショルダーバックを持った羽二重と穴、慌てて出てきて壁際に。
九呉はそれに気づかず、一旦ドア中へ。穴は羽二重を背後に隠して、二人を警戒。

九呉　（奥ドアから戻りつつ）なんもないのかよ…。（そして穴に気づく）：えっ穴？
鏡　（舞台裏ドアから戻って）伝えたよ。どうしたの。
九呉　いやこんなところに穴なんか開いてたっけ？
鏡　いやあ：。……あっ！ 穴ん中に誰か居る。
九呉　え？
穴　……。
羽二重　……。あー。ごめんなさい。ここなら誰も来ないと思って……。（観念して穴の中から出てくる）
鏡　あっ羽二重！
九呉　羽二重欄太！ お前何だよ、何してんだよ。首相秘書官じゃなくてツナモトゼンマイを買収したアルファジェネラルエンジニアリング東京支部の社員ってなんなんだよ。契約しといて工事開始日に現れないって一体何なんだよ。
鏡　（すごいなと思う）
羽二重　あー：僕はその：：。秘書官なんてやるつもりなかったんですよ。僕はただ、売り手側にもメリットのある契約をきちんと交わして、その技術の継承もしっかりと行なっていこうと：、

鏡　それがどうして、
羽二重　いえ僕はね、ほんとに真面目に仕事をしていただけで。：いや。前の町工場の買収でですね、そこは繊維工場だったんですけど、本社の言うままに契約を結んだら、本社のやり方がズサンで……。買収後にそこの工場長、なんだか借金取りに追われるハメになっちゃって……。でそう！ ついこないだなんてその工場長、刺されたんですよ？ ここんとこぐっさり。（脇腹を指す）
鏡　あー……。
穴　（羽二重の背中を撫でるなどしている）
九呉　（穴をつつくなどし始めている）
羽二重　でもう、あんなことにはしないぞって思って。だからツナモトゼンマイさんとの契約は慎重に。その技術の継承もしっかりしなきゃと思って。
九呉　（その穴を全身で塞いでみる）
羽二重　（途端に明るく）で、一文字さんから工場の機械図面をいただいたので、
九呉　（塞ぐのをやめてみる）
羽二重　（途端に暗く）それに基づいて新たに機械を構築しようと、
九呉　（穴を塞いでみる）
羽二重　（途端に明るく）その日から寝る間も惜しんで、
九呉　（塞ぐのをやめてみる）
羽二重　（途端に暗く）しっかりと準備して、
九呉　（塞いでみる）
羽二重　（明るく）着工を、
九呉　（やめてみる）
羽二重　（暗く）開始して、
鏡　九呉、やめて。
羽二重　僕の心の穴で遊ばないでください。
九呉　（あ、これ心の穴なんだ。と思い、逃げて暴れる穴を押さえ込み、塞ぎ続けてみる）
鏡　でも工事はしてないんですよね。
羽二重　（非常に明るく）いやしましたよ！でも貰った図面に違うのが混じってたみたいで。（と、バックを探り）僕、間違ってそっちの図面で工事を進めちゃったみたいで。ほらほら、この図面！（鏡に古い冊子を渡す）
鏡　あ……。九呉！ 九呉、ちょっと見て！（冊子を見せる）
九呉　なに。（穴から離れて鏡のもとへ）
羽二重　（すると途端に一段と暗くなって）……それで、こんなことになっちゃったんですよ…。

音楽と共に映像イン。古い図面冊子の表紙。
綱元の字で「『衰退島 復活！』舞台図面 綱元まこと」の文字。
スーツを着た自分の姿を描いたらしいイラストに、「俺が島を救う！」の文字。
小さな舞台上の議事堂セット。その回り舞台の図面に、「国会議事堂大回転！」の文字。

九呉　……これ…綱元の…綱元の舞台図面……、綱元の書いたやつ……！
羽二重　おかしいな、とは思ったんですよ。（映像オフ）でもその図面通りにしなきゃと思って。まずは議事堂に侵入しまして。
鏡　え。
羽二重　警備体制を密かに突破して、重機を運び入れて、百人体制で議事堂の地下を掘り進めて。
鏡　は…、

羽二重　で。あの議事堂の回転装置を。
鏡　はあ…、
羽二重　そしてその後は、ほらこの、作業工程表通りに。（別の冊子を鏡に渡す）

音楽と共に映像イン。黄ばんだ古い台本の表紙。
綱元の字で「『衰退島 復活！』脚本 綱元まこと」の文字。
スーツを着た自分の姿を描いたらしいイラストに、「プロローグ・総裁選」「俺が大活躍！」の文字。

鏡　いやこれ台本です。
羽二重　え？
九呉　（冊子を奪い）…書いたんだ。綱元、書いたんだ…！！（と、冊子を捲ると、）

映像変わり、配役表。
「首相・・綱元まこと」「国民1・・袂 平治　国民2・・山戸啓太（そしてその最後に）国民7・・九呉国麿」

九呉　ああっ…俺の役、俺の役が……、
羽二重　でまあ。（映像オフ）呼んで貰った専門家チームさんのお陰で色々順調に進んでいたんですが、あの腐敗ガスで作業が中断されて、その時なんかいよいよ変だなーと思い始めて……。そこで間違いに、気づいたんです…。
鏡　……。（なんでそれまで気づかないんだ。と思う）
羽二重　あああああ、どうしましょう……。
鏡　あ。じゃあ、あの首相は。
羽二重　え？
鏡　あの首相はいったい誰なんです？　そのイラストは綱元ですよね。でも綱元は、もう居ないですよね？
羽二重　ああ。それは……、

するとガコン、ギリギリという音と共に、羽二重と九呉と穴、横移動。回り舞台で回り出す。

鏡　…え、どこへ。ちょっと待って！（と、羽二重らを追って回り舞台に乗る）おお……（共に移動を始める）

Scene 幸せ4　―中央合同庁舎第6号館（大黒・お爺さん2・和馬・ウジ）

鏡らがギリギリと回り舞台で奥ドアに去っていくのと入れ替わりに、
手前ドアから同じくギリギリと回り舞台で大黒と蛍光色のベストを着たお爺さん2、やって来る。

大黒　（回って来ながら）ここも書き割りってどういうことよ。
お爺さん2　（回って来ながら）いやもうここら一帯、全てが書き割りですから。
大黒　（回って来ながら）そんなの許さないわよ。どうにかしないと。
お爺さん2　（回り舞台から降り）先生、先生、ここです、立ち位置。
大黒　（回り続けながら）え？なに？
お爺さん2　ほら、バミリテープが。ここに立たないと。
大黒　（回り続けながら）は？ 知らないわよ、そんな決まり。守らないわよ、私は。
お爺さん2　でもそこじゃ照明が当たってませんから。

大黒　（回り続けながら）構わないわよ。
お爺さん2　でもほら。素敵な照明ですから。
大黒　うるさい。げっそりなさい。
お爺さん2　（げっそりする）
大黒　もっと。
お爺さん2　（もっとげっそりする）
大黒　…あの首相の調べはついたの？ あの記者の娘は何をしてるのよ。
お爺さん2　あ、はい。報告書がここに……（棚を開けるマイム）あれ、どこだったかな。（引出しを開けるマイム）
大黒　ああこれだこれだ。（ファイルから書類束を取り出して、大黒に渡すマイム）こちらです。
お爺さん2　おやめなさい。（その手を払う）
大黒　ああなにを……（紙が散らばり、それを追って一枚キャッチする素晴らしいマイムを披露）
お爺さん2　そういうのいいから。報告書を持って来させて。
大黒　いやでも、官僚も職員もみんな書き割りになりましたから。
お爺さん2　げっそりなさい。
大黒　（げっそりする）
お爺さん2　いいわもう。こうなったら私が全部叩き壊してやるから。（棚を開ける乱暴なマイム）あら？
大黒　（引き出しを開ける乱暴なマイム）ああああった。このバールで全部叩き壊してやる。
お爺さん2　先生そんな、危ないですから。
大黒　（壁をバールで叩き割るマイムを始める）
お爺さん2　バリーン！ ああ先生、ガシャーン！ 先生やめてください、ドシャーン！ ガスーン！ ガガガガガガ、

お爺さん2の効果音に、和馬とアニサキス、慌てて奥ドアからやって来る。しかしアニサキスは全身が白ではなく、黒い帽子に黒いスカーフ等。実はウジ。大黒は壁を壊すマイムを続ける。

和馬　何してんですか、ちょっと。
お爺さん2　ああ、和馬さん。金目鯛さんはどうです？大丈夫ですか。
和馬　ああなんか凄い匂いだし、生簀も苔だか藻だかで全然見えなくなっちゃったけど、お陰様で、多分、うん、なんとか。（ウジに）ね？
お爺さん2　あっ、ウジ？
ウジ　えっ、やだ。アニサキスよー。アニサキスー。（和馬に）ね？（ニヤリと笑う）
和馬　うん。（笑顔を返す）
大黒　…ちょっとあなた効果音。効果音はどうしたのよ。（そして、お爺さん2を殴る蹴る）
お爺さん2　ああ、バシッ、ボコッ、バタン、ガツーン。（効果音をあげながら、殴られ蹴られ倒れる）
ウジ　あっ、大丈夫ですか、大丈夫ですか、（嬉しそうにお爺さんに駆け寄り）死ぬ？ねえこれ死ぬ？
和馬　ちょっと母さん、何やってんの。やめてよもう。
大黒　さあ全部壊すのよ、ほらあんたも。はいバール。（バールを渡すマイム）
和馬　…え？（なんとなく受け取るマイム）
大黒　ほら早くなさい。あんたこの先、こんな嘘っぱちの世界で生きてくの？　私はあんたに本当の幸せを、本当の不幸を、たっぷりと味わって欲しいのよ？　そう母さんはね、あんたの幸せと不幸のために、
和馬　ああ、ありがとう。でもそれはもう大丈夫。僕はもう大丈夫。（バールを返すマイム）
大黒　（受け取るマイム）
和馬　僕はこないだまで本当に不幸だったけど、今は本当に幸せだから。
大黒　は？

和馬　紹介したい人がいるんだ。今、電話があって。半年前から付き合ってて、五ヶ月前から、その……、

大黒　……なに。

和馬　鏡紗良さんって言って、今はそこの喫茶ビックを手伝っていて、

大黒　ああ。

和馬　その人が僕の……その……、

大黒　知ってるわよ。

和馬　え…？

大黒　で？

和馬　あ、うん。…だからさ、僕、金目鯛をね、捌くよ。豪勢なお造りにして振る舞うからさ。

ウジ　（ビクッとする）

和馬　だから父さんも一緒にさ、

大黒　ああ。あの人はとっくに書き割りになったでしょ。

和馬　え？

大黒　ほら五年くらい前だっけ。自分はなーんにもしないでさ。母さんに、お前の好きなように生きていって欲しいって、いつものように笑って言ったきり。リビングの端っこで動かなくなったでしょう。

和馬　え…？　ああそうだったっけ？ そうか。はは、父さんらしいや。（笑顔で動かなくなる）

大黒　だからあの人には似ちゃ駄目……、ん？ どうしたの。ちょっと…。（和馬を叩いてみる）

お爺さん2　コンコン。（倒れたまま効果音）ココン、コン。

少しの間のあとガコンと音がして、再び回り舞台。

和馬はストップモーションのまま、大黒以外、ギリギリと回り舞台で奥ドアへ横移動を始める。

大黒　えっ、あんたもなの？ ちょっと、どこ行くの！

お爺さん2　（回りながら）先生、ほら回らないと。場面転換です。

大黒　いやよ、なんなの？　回らないわよ、私は！

Scene 幸せ5

―議事堂地下（鏡・九呉・大黒・羽二重・穴・委員長・双子1・双子2）

和馬らがギリギリと回り舞台で奥ドアに去っていくのと入れ替わりで、

手前ドアから同じくギリギリと回り舞台で、鏡と九呉と羽二重と穴、やって来る。

九呉は台本に夢中のまま。大黒は四人を見ている。

鏡　（回って来ながら）誰も居ない…。ムラさんたちは？

羽二重　（回って来ながら）ああ皆さん割れてしまって、

鏡　（回って来ながら）割れて？

回り舞台が止まる。ガコン。

羽二重　もうすぐ初国会なんですけどね…、ほら、プロローグ「総裁選」が終わって、第一幕「初国会」です。

鏡　この地下で、ムラさん達が議事堂を回転……。

羽二重　ええ。ここでこういう棒を、こうやって押し回して…。（「Film 往路」で初老裏方が回り舞台を押し回していたジェスチャーを穴と共に）そうして新政府が裏から現れまして。

大黒　では、それをまた回せば元に戻るのね。
鏡・羽二重（振り返る）
大黒　（鏡に）よくやりました。彼を追っていたのね。
羽二重　え、誰。なんでここに…、
大黒　ああ。…次期首相候補だった、大黒です。
羽二重　あ……、
大黒　あなた何てことしてくれたの。お陰でこんな、
穴　（羽二重に覆い被さる）
大黒　あっ穴に。こら待ちなさい！（穴の中に呼びかける）覚悟なさい、あなた国家反逆罪で死刑は確実よー、観念して出てきなさーい、なさーい、なさーい。（こだま）くそっ、（と、今度は鏡の鞄を勝手に漁り、マイクを取り出しマイクに言う）さああなたも何とか言ってやって、あなたも被害者なのよ。あいつのせいでこんな……あ。改めましてこんにちわ。私、大黒和馬の母、大黒明美と申します。
（マイクに向かって正座し）この度はご縁をいただきまして。どうぞ親戚として末長く。（おじぎ）
鏡　え…、嘘……、
大黒　さ。もろとも元に戻すのよ。（鏡の鞄からスパナを取り出し鏡に持たせ）その棒とやらはどこにあるの。探しなさい。（鏡の尻を叩く）ほら早く！ほら！
羽二重　…あ、あの！元に戻すことは出来るんです。
大黒　（羽二重を見る）
羽二重　あ。あそこのゼンマイで。ほら、止めてあるだけなんで。（上手側の大きな歯車を指す）
大黒　（歯車を見る）
羽二重　なのでその鎖を解けばシュルッと全部、回転します。でも全面工事が終わったんで、もう街全体が書き割りなんで。だから今は議事堂だけでなく、街全体がこうシュルッと。だから回すと多くの死傷者が、出ちゃうんですよ…。
大黒　構わないわよ。（迷いなく鎖に掴みかかる）
羽二重　あっちょっと、
鏡　やめてください！
大黒　なにこれ。ダメだ、外れない。（九呉に）ああ、あなたその斧貸して。叩っ切るわよ。
九呉　（台本に夢中）
大黒　（鏡に）ほら、その斧取って。
鏡　ああ、
大黒　何をグズグズしてるの！その子のためでしょう。多くの犠牲を出してでも行動しなきゃ、望む世界は得られないのよ。ねえ、ここはいったい誰の望んだ世界？あなたの望んだ世界なの？
鏡　違いますけど出来ません！
大黒　なんで。
鏡　だって…、
大黒　私は私の大事な人達の世界を手に入れるわ。もしも別の世界が欲しくなったら、私からそれを奪えばいい。そう、鬼畜の所業を使ってでも。大歓迎よ。
鏡　あー……、
大黒　（そして九呉の斧を取り、鏡に渡す）さあそれを回すのよ。
鏡　でも、
大黒　現実を見なさい。元の世界に戻るのよ。それともあなた、この世界でその子を育てるの？この世界であの双子の娘たちを育てるっていうの？（下手を指す）

いかにも赤子らしいロンパースを着た双子役の中年女性達、いそいそと手前ドアから。

大黒　まー！お婆ちゃんでちゅよー、よちよち可愛らしい。（二人に駆け寄っていく）

鏡　……え？

羽二重　……ああ。この街ではこのように、全てがフィクションになりますので。

鏡　は…？

羽二重　なのであなたは、この子達の母親役です。

双子1　大丈夫。こうやって元気に産まれますから。（ハイハイで穴の背後に隠れ、穴の脇から頭を出す）

双子2　ええ。そうして元気な産声を上げますから。（同じく穴の脇から頭を出す）

双子1　あ、え、い、う、え、お、あ、お、（発生練習）

羽二重　ああその穴は僕の…、

大黒　（穴を撫でながら）うん、あなたの膣とビラビラは健康ね。大丈夫、無事に産まれるわよ。

穴　（まんざらでもない様子）

双子ら　（笑顔）

鏡　……じゃあこの子は…

羽二重　え？

鏡　この子はどうなるんですか。（自分のお腹を見る）

九呉　養成所に入るんだ。

鏡　（九呉を見る）

九呉　島で生まれた子は皆、生まれてすぐに養成所に入った。そこで演技を学ぶ。

羽二重　ああなるほど。じゃあ作らないといけませんね。えーっと、全国民分の…（メモ帳を出して）映像コースに舞台コース、ミュージカルコースに声優コース、ナレーターコースと…あと何だ……、

鏡　…あ…そこって私も、入れますか。

全員　……。（鏡を見る）

鏡　いや私も何か他の役を。何か今とは違う、役がやれたら、

大黒　ちょっと。何を言ってるの。あなたは大黒家の嫁役。和馬の妻役で、この子達の、

鏡　でも私、そんなつもりなかったんで…！　それに、こんなつもりも全然。（双子らを指す）

双子ら　（ショック）

大黒　じゃあ何。あなたは何役がやりたいの。

鏡　え？

大黒　あなたはいったい、何役を務めるっていうの。

鏡　ああ、それは……、

皆、鏡のもとに集まってくる。

大黒　いいわよ。何でも言ってごらんなさい。…さあ。

鏡　……。

皆に囲まれ、考えてみる間、しばし。しかし結局思いつかず、諦める。
大黒と他の者ら、舌打ち、ため息、呆れ、冷笑。それぞれ上手奥に離れていく。
すると、奥ドアをノックする音。

委員長（声）「羽二重くん、羽二重くん。」

羽二重　　あ…
委員長（声）「羽二重くん。ここに居るのかい？」
羽二重　　ああ綱元首相…。
大黒・鏡　　……！

冒頭シーンの綱元登場時と同じ音楽イン。
奥ドアに明かりが灯り、そこから綱元首相の小さなパペットが、顔を覗かす。

大黒・鏡　　…？
委員長（声）「どこに行ってたんだ。心配したんだぞ？」（パペットしか見えない状態で）
羽二重　　すみませんでした、
委員長（声）「まあいい。早く上に来てくれ。そろそろ初国会が始まるよ」（パペットしか見えない状態で）
羽二重　　はい。
委員長　　（奥ドアからパペットを操りつつ出て来る。存在感を消している）
大黒　　ちょっとなにこれ。…あなた何してるの。（委員長の尻を叩く。音楽カットアウト）
羽二重　　あっSP、SPはどこだ。（下手ドアの方へ）
鏡　　（羽二重を捕まえて）待って。何ですこれ？
羽二重　　え？ 綱元首相です。
鏡　　は…？
羽二重　　綱元まこと首相ですよ。あのイラスト通りでしょう。
大黒　　なに？ どのイラスト…？
羽二重　　ほらこのヅラも特注品で。日本一の老舗の柿添さんで。
大黒　　ああ確かに。これ通りだけど…、（九呉の掲げるイラストを見ながら。パペットはイラスト通りの姿）
鏡　　…いえあのほら、あの総裁選の時とか、内閣発表の時の首相は誰だったんですか、
双子ら　　（リモコンを取りに奥ドアへ）
羽二重　　（笑って）え？ だから彼ですよ。ねえ。最初っから。
双子ら　　（リモコンを操作）

映像イン。冒頭シーン「Scene 就任I」の時の様子。
記者が舞台と同じようにマイクを持ち中継をしている。カメラマンらがそれを連写。
そして羽二重と共に綱元がやって来て演説を始める。しかしその綱元は背後の委員長が操る小さなパペット。
「ご安心ください。わたくしが総裁を務めますからには、全ての雇用は直ちに安定、給料はぐんとアップ……」

大黒　　え…？ こんなだった……？
鏡　　え…、お母さん、嘘でしょ…、
羽二重　　ね。
双子ら　　（リモコン操作）

映像変わって「Scene 出発2」の内閣発表のライブニュース。赤い書き割りの前に立つ綱元は委員長の操るパペット。
声「えー綱元内閣発足です。綱元内閣発足です。」

大黒　　なんなのこれ…。
羽二重　　録画映像ですよ。（双子がリモコン操作し、映像オフ）

鏡　……これに、全国民が熱狂を……？
羽二重　はい。
委員長　わたくし、人形劇団きくらげ座の柝頭金呉（きがしらきんご）です。
双子ら　（拍手）
委員長　そして声の出演は声優の顎足銀次（あごあしぎんじ）さんです。
穴　（下手のゼンマイの一番小さいゼンマイをクルクル回す）
音声　「全国民を幸せに！全国民を幸せに！」（綱元の録音音声。繰り返し）
九呉　（慌てて台本を持って立ち上がり、台詞を叫ぶ）「綱元首相！万歳！　綱元首相！万歳！」
双子ら　（拍手）
羽二重　ね。
鏡　……。
大黒　ふざけるのもいい加減にして…。政治ってのはね、こんな茶番じゃないの。
鏡　そうですよ、こんなもの…！（パペットを委員長からもぎ取る）
羽二重　あっ…、
鏡　何がフィクションだよ！（パペットを思い切り投げ捨てる）
大黒　（パペットを思い切り蹴飛ばす）
羽二重　ああっSP、SP…、
鏡　（羽二重に斧を向け）街の人たちを避難させてください。
羽二重　え、
鏡　早く！（そして委員長に斧とスパナを向け）…どいて。
委員長　ああ…、
鏡　早くどいて！（そしてゼンマイへと向かっていく）
委員長　……。
大黒　（その様子を満足そうに見ている）

しかしその間に双子ら、パペットを拾いこっそりと大黒の手に嵌めていた。

大黒　「何の心配も要りません。私こそがより良い国づくりを、行えますから。」ひいっ…、（パペットが勝手に喋り出したらしい）
鏡　……？
大黒　ちょっと。ただの布切れが何言ってるの。具体的にはどうするおつもり？「あーそれはこれから、識者の方々と議論を重ねて」（笑って）これからってあなた、お話にならないわ、馬鹿ね。「なにをー？」あっ、やめてー。いやー。（パペットと格闘）
鏡　……あ、あの。
大黒　なに。

開演ブザーが鳴る。少しの間。

羽二重　……あ。初国会が始まります。
大黒　「よし。羽二重くん、行くぞ。」
羽二重　はい首相。こちらへ。（手前ドアを開ける。※音楽イン）
鏡　え……。

大黒　あなた…このままでは済まないわよ。絶対に引き摺り下ろしてやる。（パペットが逃げる）あ。
ねえ聞いてるの？（再びパペットが逃げる）あっちょっと。待ちなさい。（手前ドアへ去っていく）
委員長　失礼。（大黒を追って去っていく）
九呉　「首相！首相！わー！」（台本を読みながら大黒を追う）
鏡　ちょっと九呉‥、
九呉　（無言で鏡を突き飛ばす）
鏡　……、
九呉　「綱元ーーーーーー！！！」

そうして九呉も手前ドアへ走っていき、羽二重はドア中に去りドアを閉める。
少しの間あって鏡が振り返ると、双子らと穴、慌てて先ほどの穴から産まれる体勢に戻る。
そして鏡に笑顔で会釈。そこでガコンと再び回り舞台が回り出す。
ギリギリと舞台上、横移動を始める。双子らと穴、奥ドアへ去っていく。

鏡は移動の途中、慌ててゼンマイに向かって斧を振り上げる。
しかし舞台は回り続けて届かず、懸命に走ってみるも、戻ることは出来ず。

Film ENDING

鏡が回り舞台で奥ドアに去っていき、議事堂の映像。
巨大なゼンマイがギリギリと稼働し、「第二百十五回 国会開会式」の文字の書き割りが降りてくる。
議事堂の正面が上に開いて議会場が現れる。議会場にはまだ鹿が数匹。

議会場で陛下が開会の宣言をする。
陛下「本日、第二百十五回の開会式に臨み、全国民の幸せと繁栄に向けて尽力することを、切に、希望いたします。」
大黒の操るパペットが、手を振りながら演壇の前にやって来る。
九呉の後ろ頭が映る。「綱元ー！」の大喝采。

歓喜する国民たちの書き割りが、上下左右に移動する。
華やぐ街の書き割りが、上下左右に移動する。
その街で、車の書き割りを運転する人々。電車の書き割りに揺られる人々。
その地面の、立ち位置を示すバミリテープ。

大勢の元加害者たちのデモ中の様子。
議会場で格闘する、パペットと大黒。

駆動する巨大なゼンマイ。議事堂の背後の書き割りが、春夏秋冬、移り変わる。

劇団時代の若き綱元。仲間たちと初々しく稽古中の様子。
古く小さな舞台の上を、楽しげにぐるぐると回転する議事堂セット。

綱元の舞台図面。中を開くと、議事堂セットのとても単純な回転装置の図面。
綱元の台本。中を開くと、その台詞は肝心なところは何も書けていない。

パペット綱元が元気に動き回って、キャスト紹介へ。
キャストと名前の書き割りが順番に回転し、全員分が終わったら舞台に照明。
キャスト全員、舞台上に並び、一礼して去る。